

CISPR オタワ会議 総会及び各小委員会 審議結果

CISPR オタワ会議 総会 対処方針と審議結果(案)

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
1. 開会	2013年9月30(月) 9:00~12:30		議長がカナダ国内委員会と各国・各機関からの出席者に感謝の意を表して開会した。 また、Ralph Showers 氏に対して追悼の意を表し黙祷した。
2. 議事次第の承認	CISPR/1248C/DA	確認する。	初版からの変更部分についての説明をもって、承認された。
3. 前回バンコク会議(2012)の議事録の確認	CISPR/1241/RM	報告を聞く。議事録の内容については確認済みであり、特にコメントはない。	セクレタリから、バンコク会議の議事録が説明された。その中で、Moehr 氏の ACEC 議長辞任に伴い、CISPR 議長の Heirman 氏が ACEC 議長に就任したことが説明された。
4. 議事録から派生した審議事項	CISPR/1256/INF セクレタリが確認する。	特に問題なし。 報告を聞く。	セクレタリが、前回会議の議事録におけるアクション事項が全て処置されたことを報告し、議長が関係者の協力に謝辞を述べた。
5. 中央事務局からの情報	IEC News CISPR Ottawa 2013-09 IEC/CO/TOからの報告。	報告を聞き、内容を確認する。	Sebellin 氏が以下の報告を行った。 ・TC,SC の議長の任期が最長9年に制限される。(最初の任期は6年で、その後3年までの延長が可能。) ・P メンバは Agenda について意見を書面で提出することで、会議に出席したことと見なしてよい。ただし、会議中のいかなる投票にも参加できない。 ・投票結果の通知方法を拡充した。

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			<p>・IEC の文書作成のフォーマットが新しくなった。</p> <p>また、以下2件に関する議論があった。</p> <p>・CISPR での Smart Grid の検討状況を IEC の eTech に掲載する案件。</p> <p>・IEC の Web Site から文書を除去する場合の手法に関する案件。</p>
6. CISPR 組織			
6.1 CISPR と小委員会の議長の任期について	<p>CISPR/1253/INF CISPR/D/410/AC CISPR/1261/INF CISPR議長・各小委員会議長の任期延長、D 小委員会議長の交代について提案される。</p>	<p>CISPR 議長、D 小委員会を除く現小委員会議長の任期を3年延長することに賛成する。また、D 小委員会議長の交代についても賛成する。</p>	<p>議長の任期を6年とし、延長を3年とし、最長9年間の任期を認めるという新しい IEC ルールによれば CISPR の場合、2016 年に D 小委員会議長以外の議長は全て退任することになり、一気に 90%の議長が交代するのは大問題になりかねないことが認識された。</p> <p>【アクションプラン】</p> <p>一度に多数の議長が交代することを防ぐために、柔軟な対応を認めるようにする提案を用意することとなった。</p> <p>Poul Andersons 氏の D 小委員会議長の任期満了に伴い、Mike Beetlestone 氏がドイツから議長にノミ</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			<p>ネットされ、全会一致で合意された。</p> <p>また、3年の任期延長が認められた議長を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> •D Heirman 氏 (CISPR 議長)(アメリカ) •M Stecher 氏 (A 小委員会議長)(ドイツ) •B Sisolefsky 氏 (B 小委員会議長)(ドイツ) •U Kampet 氏 (F 小委員会議長)(ドイツ) •B Gorini 氏 (H 小委員会議長)(イタリア) •M Wright 氏 (I 小委員会議長)(イギリス) <p>なお、M Wright 氏については、CISPR の副議長として3年の任期延長が認められた。</p>
6.2 P-メンバの参加	<p>CISPR/1254/INF</p> <p>Pメンバであるにも関わらず、CISPR会議に参加しない国々があるため、これらの国々に対し、エキスパートの派遣を依頼する、書簡でもよいかからCISPR会合への参加を要請する等のアクションを起こすことへの是非が審議される。</p>	<p>報告を聞き、以下の方針に基づき対処。</p> <p>活動が低迷している NC に対する参加要請等については賛成の態度で臨む。</p>	<p>バンコクでの合意に基づき、セクレタリは、会議に参加していないPメンバ及び、Pメンバとしての活動を要望されているがOメンバにステイタスを変更したメンバに文書を送付した。</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			<p>【アクションプラン】</p> <p>IEC 中央事務局は、Pメンバとしての責任と参加義務について周知する INF 文書を用意し、毎年参加の状況を確認する。</p>
6.3 総会における方針の設定	<p>CISPR/1250/DC 議長が報告を行い、決議を行う。</p> <p>CISPR総会では、CISPR全体にわたる方針等の決定を行うが、各小委員会の中には異なる方針が適切な小委員会もあり得る。総会決定が各小委員会に強制力を持つか否かについて審議される。</p>	<p>報告を聞き、CISPR/1250/DCの我が国の回答に基づき以下により対処。</p> <p>政策課題については総会決定を遵守するよう規定を改定し、技術的課題については総会に先立って各小委員会に回議し、十分な技術的検討を行うことを提案する。</p>	<p>CISPRの政策決定の文書について議論を行った。</p> <p>政策実行に関する規定は、変更しないことを決定した。また、各国からのコメントを考慮し政策実行に向けた手順を明確にするために、新しいDraftを出すことが合意された。CISPRの政策は最終的には投票によって決定されることを示すために、次のDraftが、運営委員会のreviewの後に回付されることとなった。政策は、FDISと同じ判定基準で適用される予定である(Pメンバの三分の二以上の賛成と、全体の四分の一未満の反対)。</p> <p>【アクションプラン】</p> <p>セクレタリは、CISPR/1250/DC文書に対する各国NCコメントについての見解をINF文書で配布する。</p> <p>上記のINF文書が発行され、各国NCコメントを受け取った後、最終の政</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			策案がセクレタリによってDC文書化される。
7. 技術的な課題			
7.1 ワイヤレス充電について	<p>CISPR/1258/INF、CIS-S 139</p> <p>B小委員会議長並びにD小委員会議長が報告を行う。</p> <p>近年、電気自動車を始め、様々な電気機器でWPTの検討が進められ、CISPR規格の整備が求められている。今後、どのようにしてWPT技術の検討を行うかについて審議される。</p>	<p>報告を聞き、以下の方針に基づき対応。</p> <p>我が国としては、電気自動車及び家電に対するワイヤレス電力伝送の検討を加速させるとともに、B小委員会に許容値及び測定法を検討するメンテナンスチームを設置するとともに、我が国のエキスパートを登録することにより、我が国が議論をリードするとともに、技術の優位性を確保する。</p>	<p>我が国の、「WPTに関する妨害波規格の制定を速やかに推進していくべきである」という提案が合意された。そして、ITU-Rからの情報に基づいて、適切な妨害波許容値の精査をH小委員会が牽引役となって進めていくと共に、B小委員会、F小委員会、I小委員会においても担当する製品群規格への反映に向けた取り組みを行うこととなった。IARUは、電動歯ブラシのような小さな装置だけでなく、大型装置も念頭に入れて取り組むよう要請し、WPTの検討では、周波数や使用する電力と同様に、機器のサイズについても定義が必要であると述べた。</p> <p>B小委員会とF小委員会においてはすでに議論が始まっており、I小委員会では今回会合のAgendaに載せられていることが紹介された。これらの小委員会での検討に関わる調整は、運営委員会で行われることとなった。</p>
7.2 9kHz～150kHz の帯域の	ACEC/359/RM	報告を聞き、以下の方針に基づき対応。	議長は、この周波数域における検討

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
EMC に関する懸念について	<p>B小委員会議長並びにD小委員会議長が報告を行う。</p> <p>9 kHz～150 kHzの周波数範囲において、スマートメーターへの干渉の可能性が増していることを考慮し、150 kHz以下の伝導妨害波試験の必要性について議論する。</p>	<p>昨年バンコク会議における我が国の提案(9 kHz～150 kHzの伝導妨害波試験及び伝導イミュニティ試験の導入の必要性)は、十分な支持が得られなかったことから、本件は検討を開始しないこととなった。我が国からは、干渉事例を提出し、伝導妨害波測定の実験の必要性について説明し、検討を開始できるよう対処する。</p>	<p>状況を ACEC/359/RM 文書を参照しながら、現時点では ACEC が TC77 WG8 に対して、この周波数域における両立性のレベルの調査を依頼しているところであると報告した。</p> <p>【アクションプラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H 小委員会は、要求される許容値を制定する推進役として、9 kHz～150 kHz の障害モデルの検討を開始し、次のプレナリまでに検討結果を公表する。 ・B 小委員会は、CISPR11 の 9 kHz～150 kHz の許容値を GCPC に適用可能か否かを精査する。
7.3 CISPR 規格における“Emissions”と”Disturbance”の使い分け	<p>CISPR/1257 /INF</p> <p>A小委員会議長が報告を行う。</p>	<p>報告を聞き、状況をみて対応する。</p>	<p>A 小委員会議長は、CISPR 32 はこれらの用語の使い方が他の規格と一致していないことを紹介した。これは用語の定義と使用法に関する課題であり、その内容は Erick Winter 氏がリーダーの terminology group (A 小委員会の用語作業班) に任されているため、CISPR の各小委員会は、terminology group の審議が出るまでアクションを取らないことが要請された。</p>
7.4 “reference ground plane”の定義	<p>A小委員会議長からの提言について検討される。</p> <p>「現在、Ground Reference Plane(GRP)と</p>	<p>報告を聞き、状況をみて対応する。</p> <p>※本議題は、9月に開催された電波利用環</p>	<p>IEV(専門用語集)における”ground reference plane”という用語は、CISPR で使用している”reference ground</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
	Reference Ground Plane (RGP)の2つの用語が使用されているが、これをRGPに統一してはどうか」という提言に対する検討結果が報告される。	境委員会後に追加された案件。	plane”に変更されたことが報告された。
8 議長案件			
8.1 議長からの報告	CISPR_Chair_Report_2013_Ottawa 議長が報告を行う。	報告を聞く。	会議の時間が限られているため、何か質問があれば、後日議長宛にメールを送付することとした。
8.2 ACEC からの報告	ACEC presentation--Ottawa 議長が報告を行う。	報告を聞く。	ACEC 報告についても何か質問があれば、後日議長宛にメールを送付することとなった。
8.3 ACEC メンバについて	ACEC/353/INF 議長が報告を行う。	報告を聞く。	ACEC には CISPR から4人のメンバ登録が認められており、現在の CISPR からのメンバは、 D Heirman(CISPR 議長)、 M Stecher (A 小委員会議長)、 B Sisolefsky(B 小委員会議長)、 B Gorini(H 小委員会議長) であることが報告された。
9. 「1906 年賞」の受賞者	CISPR 1906 nominations 2013 今年度の受賞者の報告。	報告を聞く。 日本からの受賞者 :鉄道総合研究所 川崎氏	CISPR から以下4人が 1906 賞を受賞し、議長より各受賞者が紹介された。 川崎氏(日本)B 小委員会、 Deter 氏(ドイツ) A 小委員会・F 小委員会 Arnett 氏(アメリカ)I 小委員会 Storrs 氏(スウェーデン)

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
10 スマートグリッド WG-1 (CISPR/S WG1)のコンベンナ からの報告	CIS-S 138A CISPR/S/WG1コンベンナからの報告。	報告を聞く。	I 小委員会 I/WG2 CISPR/S/WG1 コンベンナの Ahn 氏 から、Smart Grid Guide 文書(案)に対 する各国国内委員会からのコメントを 検討し、その結果に基づき新しいバー ジョンの文書を配付する予定であるこ とが報告された。 議長は、「CISPR/S/WG1 は規格を 作る場ではなく、Smart Grid Guide 文 書は IEC のスマートグリッドにおける活 動に際し、どのような CISPR 規格が適 用されることになるのかを確認するた めものである。」とコメントした。 イギリスから、Smart Grid Guide 文書 の完成を持って S/WG1 は解散すべき ではないかとの提案があったが、総会 では S/WG1 にはまだ検討すべき課題 が残されているという認識であった。 イギリスからの提案に呼応して、(総 会) 今回の S/WG1 会合を持って副 コンベンナを退任する Wright 氏の功 績を称えた。また、新しい副コンベンナ を Jean-Luc Detrez 氏(ベルギー)が担 当することとなった。
11. SBP(戦略的ビジネスプラ ン)の見直し	CISPR/1255/INF 議長が報告を行う。	報告を聞き、内容を確認する。	SBP については変更しないことが提 案され了承された。議長は、SBP は CISPR 各小委員会の様々な計画を含

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			むものであるので、各国 NC に対し確認を要請した。
13. CISPRと他の機関とのリエゾン報告	<p>CISPR/1259/INF Report_CIGRE_ TC20-2013-045</p> <p>下記の機関の代表者が報告 ITU-R (radio) ITU-T (telecom) ECMA (IT /CE) EBU(broadcasters) IARU (Amateur) CIGRE ETSI CEPT</p>	報告を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> •ITU-R 特段報告は行われなかった。 •ITU-T ITU-T SG5 WG2 の議長である服部氏から、ITU-T SG5 における活動の概略について報告があった。 •EBU 特段報告は行われなかった。 •IARU IARU の Kootz 氏から以下報告があった。IARU は 30MHz 以下の要求事項についてとても憂慮している。 特に、プラズマテレビ、DC ネットワーク、WPT (大きい誘導コイル) について憂慮している。IARU は CISPR に対し、現在進めているこれらの分野の作業を強力に推進して欲しいと要望した。 •CIGRE Cristescu 氏が、CIGRE、特に EMC についての活動について概略を報告した。 •ETSI 特段報告は行われなかった。

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			<ul style="list-style-type: none"> •CEPT 特段報告は行われなかった。 •ECMA Destrez 氏が ECMA の活動概要を報告した。また、総会における政策決定方法(6.3 項)について懸念を有しており、この問題は意深く検討し対処すべきであるとの見解を示した。
13. CISPR と TC77 との共同作業の報告	CIS 122c,77/Sec/008 活動状況の報告 a. Joint Task Force の報告(A 小委員会議長)	報告を聞く。	議長は、「CISPR は今や TC77 CAG に代表を派遣しており、TC77 のセクレタリと副セクレタリが CISPR CAG の電話会議へ参加することを歓迎する」と述べた。 •Joint Task Force (JTF) CISPR と TC77 の JTF には、反射箱 (reverberation chambers) と TEM セルの使用に関する作業が盛り込まれていることが紹介された。本件についての詳細な議論は行われなかった。
14. その他議事			特段何もなかった。
15. 次回会議の日程と場所	2014 年ドイツ (2013 10/13-) 2015 年 指名と承認(予定)	報告を聞く。	フランクフルト(ドイツ)にて 2014 年 10 月 20 日に開催予定となったが、開催地についてはまだ議論中である。 2014 年の CISPR 合同委員会の日程表は、各小委員会からの要望を基に運営委員会で議論されることとなった。
17. 閉会	(12:30まで)。		議長から、改めてカナダ国内委員

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			会に感謝の意を表して閉会した。

【審議結果のポイント・今後の進め方・目標等について】

○審議結果のポイントと結果の概要

・ワイヤレス電力伝送の検討開始について

近年、電気自動車を始め、様々な電気機器でワイヤレス電力伝送(以下、WPT)技術の検討が進められ、CISPR 規格の整備が求められている。我が国から、WPT の妨害波等の許容値及び測定法に関する検討開始を総会の場において提案した。

その結果、関係する小委員会(B小委員会(ISM機器・電力設備)、F小委員会(家電・照明)、I委員会(マルチメディア機器))にタスクフォース(以下、TF)を設置して検討を加速あるいは開始することとなり、各小委員会間の調整は運営委員会で行われることとなった。F小委員会とI小委員会においては、それぞれオランダ、アメリカのメンバーをリーダーとするTFが設置され、我が国からも当該TFへの参加を表明した。またB小委員会においては、IECにおいて自動車関連の標準を定めているTC69が検討している測定法について、CISPR11の基準に従うという方針の下で妥当性を検証することとなった。そこで、TC69で進めている電気自動車の充電器に関する測定法及び測定条件等の妥当性をCISPRの立場でチェックを行うリエゾンオフィサーに日本からも登録を行った。また、B小委員会に設置されるTFには、日本からリーダーとしてエキスパートを出すことを提案し承認された。

今後、適切な許容値等について実証実験等を行い、国内の審議会と平行して提案するほか、各国にこれらの正当性について働きかけることが必要である。

・CISPR 総会の方針の小委員会に対する義務化について

CISPR 総会では、CISPR 全体にわたる方針等の決定を行うが、各小委員会の中には総会とは異なる方針を採用する小委員会もあり得る。総会の決定が各小委員会に強制力を持たせるべきか否かについて審議された。事前に送付された DC 文書に記載された A 案(CISPR 総会での決定は各小委員会に義務とする)を支持する国内委員会はほとんど無く、また、B 案(CISPR 総会での決定事項のドラフトは、各国の委員会に事前に回覧することとする)については、各国の国内委員会から多数のコメントが出されたため、先に発行した DC 文書の改訂版を準備し、再度各国の意見を聞くこととなった。

・9 kHz～150 kHz の帯域の EMC に関する懸念について

9 kHz～150 kHz の周波数範囲において、スマートメーターに対する干渉の可能性が増加していることを考慮し、150 kHz 以下の伝導妨害波試験の必要性について、昨年のバンコク会議に引き続き議論されている。議長から、「現在、ACEC が TC77 WG8 に対して、この周波数域における両立性レベルの調査を依頼しているところである」という旨の報告があり、以下2点のアクションプランが提示された；

- ① H 小委員会では、この問題の牽引役として、9 kHz～150 kHz の障害モデルの検討を始めて、次の総会までに検討結果を公表する。
- ② B 小委員会では、CISPR11 における 9 kHz～150 kHz の妨害波許容値を GCPC に適用できるか否かを精査する。

○今後の進め方・目標等について

WPTについて、我が国のWPTが無線業務に与える障害問題の防止に関する検討を行い、国際協調を図りながら結果をとりまとめて、これを CISPR 国際規格へ反映することを目指して積極的に提案する。そのためにも、日本国内における検討体制の整備が必要である。そこで、電波利用環境委員会の対応する B,F,I 作業班にそれぞれアドホックグループを設置して議論を活発化させて、各小委員会(B,F,I)に設立された TF に提案を行っていく予定である。また、当該アドホックグループに対する人的・経済的支援を関係団体に要請中である。総務省においても、来年度以降の予算要求などを通じて、TF への参加及び提案する許容値及び測定法のための実証実験に係る費用の確保に努める。

<略語>

ACEC…電磁両立性諮問委員会 (Advisory Committee on Electromagnetic Compatibility, IEC 内部組織)

SC…小委員会 (Sub Committee)

NC…国内委員会 (National Committee)

ECMA…欧州電子計算機工業会 (European Computer Manufacturers Association)

EBU…欧州放送連合 (European Broadcasting Union)

IARU…国際アマチュア無線連合 (International Amateur Radio Union)

CIGRE…国際大電力システム会議 (英:International Council on Large Electric Systems)

ETSI…欧州電気通信標準化機構 (European Telecommunications Standards Institute)

CEPT…欧州郵便電気通信主管庁会議 (英:European Conference of Postal and Telecommunications Administrations)

CISPR オタワ会議 運営委員会 対処方針と審議結果(案)

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
2013年9月25日 14:00-17:30			
1. 開会	2013年9月25日 14:00 - 17:30 メンバーリスト回覧、出席者の確認		議長がカナダ国内委員会に謝意を示し、 会議参加者に歓迎の意を表して開会
2. 議事次第の承認	文書: CISPR/S/347A/DA 議事次第の確認が行われる。	確認する。	下記の議題を追加して承認 (1)7.7 Vice Chairmanship (2)20.3 (a)Testing battery operated devices which can be connected to ac/dc adaptors (b)ITU-T SG 15 Liaison letter to CISPR/I (c)Japanese concerns on WPT (d)Items for IEV
3. バンコック会議議事録の確認	文書: CISPR/S/346A/RM(バンコク会議) 2012年11月のバンコク会議の議事録が 確認される。	確認済みであり特にコメントはない。	特に変更等はなく承認された。
4. 議事録から派生した議事次第 でカバーされていない事項	文書: CISPR Actions	状況をみて対処する。	特になし。
5. CISPR 議長主催の運営委員会 の電話会議で発生した、		状況をみて対処する。	(1) CISPR/S/WG1 の副コンビーナ(SC/I 議長・Wright 委員)が今回をもって退

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
議事次第でカバーされていない事項			<p>任するため、後任を選出する。 → Detrez 委員が担当することとなった。</p> <p>(2) A 小委員会議長と B 小委員会議長は、ITU-RからのWPTに関する検討依頼に対する CISPR からの回答を準備する。 → 完了</p> <p>(3) Jones 委員は Smart Grid および 9 kHz - 150 kHz の Emission に関する EU の Work shop 情報を入手する。 → 完了</p> <p>(4) DC 充電・給電機器の妨害波およびイミュニティ(IEC-Web 経由の質問)について → I 小委員会で検討し回答案を準備する。本件は CISPR に提案する前に TC77 とも協議する。</p> <p>(5) 来年の電話会議の予定について → 2014 年 1 月 14 日は確定。他については今後協議する。</p>
6. IEC 中央事務局からの情報	文書:IEC News CISPR Ottawa 2013-09 Mr. P. Sebellin より情報提供が行なわれる。	報告を聞く。	IEC 中央事務局の Sebellin 委員が、発行した Publication 数、TC/SC 数、エキスパート数、会議参加者数等を報告した。詳細は IEC News CISPR Ottawa 2013-09 文書参照。本議題では以下の議論があった。

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
			(1) 会議への On line 参加について→ IEC/CO の将来課題とする。 (2) 各国国内委員会の Correspondence 参加について→参加は可能であるが書簡による投票は認めない。 (3) 議長の任期に関する新ルールについて→D 小委員会議長を除く全議長が同時に退任することを確認した。 (4) 副議長ポストについて→CISPR および各小委員会に副議長を設置可能。副議長の推薦は幹事国の提案と AC 文書による募集の両方で進める。 (5) IEC/CO 情報のプレゼンについて→ CISPR 総会でのみプレゼンされるため、各小委員会向けに簡略版を準備することとなった。
6.1 前回の会議以降に発行された Publications	Mr. P. Sebellin より情報提供が行なわれる。	報告を聞く。	上記 6. 項に含めて報告された。
6.2 注意すべき AC 文書	Mr. P. Sebellin より情報提供が行なわれる。	状況を見て対処する。	上記 6. 項に含めて報告された。
7. 各種議題の進捗状況	7.1 CISPR および各小委員会議長の任期 文書:CISPR/1253/INF	7.1: 報告を聞き状況を見て対応する。我が国は B 小委員会、I 小委員会とも現議長の任期の	7.1:CISPR および各小委員会議長の任期延長案は異論なく合意され、提案通り CISPR 総会へ付議し投票することとなっ

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
	<p>CISPR/D/410/AC</p> <p>CISPR 議長およびD 小委員会を除く各小委員会議長の任期の3年延長と、D 小委員会議長の交代について、当該幹事国の対応状況等が報告され、最終的には CISPR 総会での 2/3 以上の賛成で承認されることが報告される。</p> <p>7.2 P-member の参加について 文書:CISPR/1254/INF</p> <p>Activity の低い P メンバ である国内委員会に対し、運営委員会はエキスパートの派遣の依頼や書簡でもよいから CISPR への参加を要請するとともに、今後の CISPR 活動への対応予定について照会した。今回の会議では照会結果をとりまとめた CISPR/1254/INF が報告され、CISPR 総会での報告に向けた情報共有と方針確認が行われる。</p> <p>7.3 Policy setting in plenary 文書:CISPR/1250/DC</p> <p>CISPR/1250/DC 文書は、CISPR 総会</p>	<p>3 年延長に合意しており、また他の小委員会の議長の任期延長および D 小委員会の議長交代に異論はないため賛成の態度で臨む。</p> <p>7.2: 報告を聞き状況をみて対応する。Activity の低い国内委員会が P メンバから O メンバへの変更を申し出ていることについては止むを得ないと考える。</p> <p>7.3: CIS/1250/DC 文書に対する回答に基づき以下の方針で対応する。</p> <p>① 政策的な課題については CISPR 総会での決定を義務付ける A 案の採用に賛同する。</p> <p>② 技術的な課題については、技術的な検証や確認が不十分なまま安易に CISPR の各製品委員会に一律に適用を</p>	<p>た。本議題では以下の議論があった。</p> <p>①新しい IEC ルールによれば 2016 年に D 小委員会議長以外は全て退任することになる。一気に 90%の議長が交代するのは大問題になりかねない。</p> <p>②SMB に状況を話して Deviation を考慮してもらうことにはどうか。</p> <p>→ 本件は次回の CAG で継続検討することとなった。</p> <p>7.2:P メンバから O メンバへの変更は諸般の理由で止むを得ない面もあるが、せめて書簡で活動を継続してもらおうよう当該国内委員会に依頼する。</p> <p>7.3(Policy setting in plenary)について: 全体的に見て A 案は支持されておらず、B 案も十分な賛同が得られていないとの結果が認識された。本件については各メンバより様々な意見が出されたが、結論には至らなかった。議論の結果に基づき TF (CISPR セクレタリ、Detrez 委員)で CISPR/1250/DC の改定版を 11 月 30 日ま</p>

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
	<p>において投票を行う場合に、各国国内委員会(特に Head delegate)に対する要望と、CISPR 総会の決定は厳にこれを遵守すべきであることを旨とした文書で、これまでの事例を引用しながら問題解決に向けた2つの案を提案している。本文書に対する各国国内委員会のコメントがレビューされ、9月30日AMに開催されるCISPR 総会オタワ会議での対処方針が議論される。</p> <p>7.4 Work Tracking 文書:CISPR/1251/INF CISPRの各Publicationの修正や改定事項の一覧表が準備され、各小委員会での検討の進捗状況が確認される。</p> <p>7.5 Cross subcommittee issues CISPR議長より以下の案件についての報告が行われ、今後の扱いについて議論されるものと思われる。</p> <p>① ワイヤレス充電について 文書:CISPR/1251/INF</p>	<p>義務づけるような決定には反対する。また、CISPR 総会で判断する前に各国NC、各SCは十分な検討を行うべきであるとしている Option-Bの採用に異存はないが、CISPR 総会で各国NCの過半数の賛同が得られたため全SCに導入を強制すると言ったような単純な決定についても反対する。このような場合は、各SCの独自の判断に任せるべきであるという Option もあり得ることをコメントする。</p> <p>7.4: 報告を聞き進捗状況を確認する。</p> <p>7.5: 報告を聞き、以下により対応する。</p> <p>① ワイヤレス充電については、CISPR/1258/INF 文書に対</p>	<p>で準備し、継続検討することとなった。</p> <p>7.4: アップデートしたことが報告された。特に議論はなかった。</p> <p>7.5 (Cross subcommittee issues): 本議題では Joint WG のリストが紹介され、各J-WGが担当している案件と進捗の説明が行われた。特に議論は行われなかった。</p> <p>7.6 (Preparation for 2013 Plenary): 議長より、冒頭に先日逝去した Dr. Showers の功績の紹介と黙祷を入れたいとの提案があり、合意された。次いでセクレタリが総会の議事次第の説明を行い、一部の議事次第の組み換え等を行った。</p> <p>雨宮より、日本国内委員会が提出したWPTに関するINF文書(CIS-S 139文書)を総会の議事次第に追加することを依頼した。これに対し議長より、WPTはB小委員会、F小委員会、I小委員会それぞれに文書をインプットして議論してもらえばよい、総会でプレゼンする理由は何かの質</p>

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
	<p>B 小委員会とD 小委員会での取り組み状況が報告されるとともに関連する製品委員会であるF 小委員会、I 小委員会をも含めて今後の検討の進め方について議論される。</p> <p>② 9 kHz～150 kHz の妨害波について。</p> <p>③ CISPR 規格間で所掌機器を移管する場合の留意事項</p> <p>④ CISPR 規格の表紙等に「Basic and Horizontal Standards」を明示することについて。(明記されていない CISPR 規格が多々存在する。)</p> <p>⑤ CISPR 規格で使用されている Definition のリストアップと今後のリファーマーについて</p> <p>7.6 Preparation for 2013 Plenary 文書:CISPR/1248A/DA</p> <p>7.7 Vice Chairmanship</p>	<p>する我が国の回答に基づき以下により対応する。</p> <p>ア. 本案件は重要かつ緊急性が高いため、関係する小委員会の協力を得て早急に検討の推進体制を構築すべきである。</p> <p>イ. TF、プロジェクト等が構築されるのであれば、わが国は積極的に参加する。</p> <p>② ついては、CISPR/1216/Q に対するわが国の回答に基づき、CISPR は早急に体制を構築し検討を推進すべきであることをコメントする。</p> <p>③、④、⑤については、報告を聞き状況をみて対応する。</p> <p>7.6: 報告を聞き、準備状況を確認する。</p> <p>7.7: 報告を聞き、状況をみて対応</p>	<p>問があったため、両宮が日本国内委員会としての見解を確認後、9 月 27 日の運営委員会で下記の 3 点を説明した。</p> <p>(ア) WPT は喫緊の課題であり CISPR は一刻も早く体制を構築し、検討を推進すべきである。</p> <p>(イ) 日本国内委員会は関連小委員会での検討に対し技術面および人的な貢献を行う用意がある。</p> <p>(ウ) 今回提出した文書は議論を目的としたものではなく、情報提供の位置づけである。</p> <p>本件は審議の結果、日本国内委員会が総会で数分のプレゼンを行うことが了承された。</p> <p>7.7 (Vice Chairmanship): 議長は、現在の Vice Chairman である Wright 委員より、I 小委員会議長の 3 年延長は OK だが、Vice Chairman の 3 年延長は認めることが出来ないとの話を聞いており、できるだけ早い時期に措置を講ずる必要があるとの見解を示した。また、各小委員会にも Vice</p>

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
	本件は、2. 議事次第の確認の際に追加された議題である。	する。	Chairman を設けることもあり得るため、今後の検討事項となった。なお、Vice Chairman の推薦は各国国内委員会が関与できるように AC 文書にて行うべきであることが合意された。
8. ACEC 代表からの報告	文書:ACEC/xxx/RM	報告を聞く。	本報告は割愛された。
9. CISPR 議長からのリエゾンとメンバに関する報告	CISPR に文書で到着したリエゾン文書についてのみが報告され、取るべきアクションと担当 SC 等が審議される。	報告を聞き、担当小委員会が適切か、検討スケジュールに無理がないか等を確認する。	特に報告はなかった。
10. 1906 award	文書:AC/29/2013	報告を聞く。	今年の実賞者 4 名が紹介され、来年も推薦をよろしくとの依頼があった。
11. CISPR と TC77 との共同作業の報告	CISPR と TC77 間の JTF 他の進捗状況が報告される。	報告を聞く。新たな JTF 設立の動きがあるか否かを確認する。	(1) 中国国内委員会から提起されたバッテリー動作機器の妨害波測定法についての議論があり、バッテリー動作と USB 充電の 2 つのモードで測定すべきであることが合意された。議長は、本問題を Review するための文書を準備し、CISPR/S で議論してから TC77 に INF 文書として送付したいと述べ了承された。(上記の議題 5-(4)参照) (2) JTF-Measurement Uncertainty 本 JTF は前回の TC77 会議後に解散

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
			<p>したため、JTF での検討結果に基づき発行された文書の Review 方法、これらの文書を IEC Web のどこに置くのかが議論された。Review は Lead Committee が担当し通常のプロセスで行う必要があることが認識されたが、文書の保管場所については、IEC/TO の Sebellin 委員が検討し報告することとなった。</p>
<p>12. 各小委員会の審議結果の報告</p>	<p>12.1 Report from CISPR/A 文書:CIS/A Report 議長の M.Stecher 委員より審議状況が報告される。</p> <p>12.2 Report from CISPR/H 文書:CIS/H Report 議長の B.Gorini 委員より審議状況が報告される。</p>	<p>12.1～12.2: 報告を聞く。</p>	<p>12.1 Report from CISPR/A:A 小委員会議長が、新たに A/B-JTF を立ち上げたこと、A/D-JTF、A/F-JTF、A/H-JTF、A/I-JTF の検討状況、30 MHz 以下に関する検討状況、EUT のサイズに関する検討状況等を報告した。次に、最近は技術の後継者がいなくなってきており、A 小委員会の場合は Dr. Sugiura と Dr. Alexander が退任するため少々深刻な事態となりそうであり、Financial サポートが得られないため参加できなかったメンバも存在し、Active なメンバが 5、6 人しかいない状況で今後の A 小委員会のミッションを遂行するのは容易なことではないと所感を述べた。そして Face to</p>

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
			<p>Face Meeting が難しい場合は電話会議を活用するようにはどうかと提案した。本提案は継続検討することとなった。</p> <p>12.2 Report from CISPR/H: H 小委員会議長が、B 小委員会が提案している GCPC の許容値を審議する H/B-JTF を設立しようとしたが、十分な賛同が得られず TF を構築して検討することになったと報告した。 GCPC の許容値については、B 小委員会議長、IARU 委員、EBU 委員の間でやや激しい議論が始まったが、議長は審議時間の都合もあり途中で議論を打ち切った。最後に H 小委員会議長は H/WG1 は来年 2 月に中間会議をシンガポールで開催予定である、H 小委員会は Vice Chairman を置く予定であると報告した。</p>
2013 年 9 月 27 日 9:00 – 12:30			
13. 9 月 25 日の会議で審議が完了していない事項		状況をみて対処する。	本議題は割愛された。

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
14. 各小委員会の審議結果の報告	14.1 Report from CISPR/F 文書:CIS/F Report 議長の U. Kampet 委員より審議状況が報告される。	14.1 :報告を聞く。	14.1 Report from CISPR/F: 小委員会 F 議長が、A 小委員会関係では CDNE を用いた測定法の進捗状況を報告 (FDIS 準備中)し、30 MHz 以下の測定法については A 小委員会での検討を加速するよう要請した。運営委員会関係では多機能機器に関する測定法、WPT に関する日本国内委員会からの提案等についての議論の状況を報告した。
15. Smart Grid WG からの報告	文書:WG1 Report CISPR/1252/DC CIS/S/WG1 コンビナーより審議状況が報告される。また、Smart Grid の EMC ガイダンス文書案について各国国内委員会に意見照会した CISPR/1252/DC 文書については、各国 NC 国内委員会の要約が報告され、今後の進め方が議論される。	CISPR/S/WG1 の審議状況については報告を聞く。 CISPR/1252/DC 文書については、本文書に対する各国 NC コメントの要約を確認するとともに、今後の進め方に関しては、議題 7.5 の②と同様、9 kHz～150 kHz の妨害波に対する検討を推進すべきである旨をコメントする。	コンビナーの Ahn 委員より、照会した DC 文書に対する各国国内委員会からのコメントに基づき、Smart Grid の EMC ガイダンス文書案を作成したことが報告された。本文書は運営委員会メンバが Review した後、INF 文書として発行する予定となった。副コンビナーである Wright 委員が今回の S/WG1 会議をもって退任し、Detrez 委員が副コンビナーを担当することとなった。
2013 年 10 月 3 日 9:00 -12:30			
16. 9 月 27 日の会議で審議が完了していない事項		状況をみて対処する。	本議題は割愛された。
17. 総会の結果の報告		報告を聞き、今後の課題とその検	時間の関係で本議題は割愛され、セクレタ

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
		討体制およびスケジュールを確認する。	リが今後のアクション事項を整理することとなった。(詳細は総会議事録参照)
18. 各小委員会の審議結果の報告	<p>18.1 Report from CISPR/I 文書:CIS/I Report 議長の M. Wright 委員より審議状況が報告される。</p> <p>18.2 Report from CISPR/B 文書:CIS/B Report 議長の B. Sisolefsky 委員より審議状況が報告される。</p>	18.1～18.2: 報告を聞く。	18.1 Report from CISPR/I:SCI 小委員会議長が、文書の準備状況 (FDIS:3 件、CDV :5 件等)、CISPR 22 の 3 m 測定と 10 m 測定の解釈を明確にする ISH 文書を準備、ゲーム機器を I 小委員会の Scope とするための手続き (DC 文書を準備)、Site Validation の 4 dB を見直す提案に関する議論 (DC 文書での議論が必要) 等の報告を行なった。次いで、A 小委員会が EUT の測定配置、動作条件等に関する不確かさを検討しないことに落胆したが、本件は必要かつ重要であるため I 小委員会は CISPR 16-4-1 に基づき検討を開始する予定であるとの見解を示した。さらに、ITU-R から I 小委員会に届いた WPT に関するリエゾン文書に対する回答は B 小委員会の助けを借りて準備する予定であること、I 小委員会に Vice Chairman を置く予定であることを報告した。I 小委員会議長は最後に、総会に P メンバが書簡で参加する件については明確な規定あるいはガイドライン

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
			<p>が必要であると要求した。本件については IEC/TO が検討し 12 月末までに文書案を準備することとなった。</p> <p>18.2 Report from CISPR/B: B 小委員会議長が、MT-GM、MT-GCPC、MT-APD および、GCPC の妨害波測定用 DC-AN の Validation、GCPC の妨害波 Limits についての検討状況と今後の検討予定を、また WPT については WG1 に TF を設立し CISPR 11 のメンテナンス事項として検討していく予定であることを報告した。なお、電力伝送については有線伝送関係を Hayes 委員が担当し、無線伝送関係を Sisoletsky 委員が担当することとなったと報告した。</p>
19. Review the Strategic Business Plan	<p>文書:CISPR/1255 INF</p> <p>CISPR 総会の結果に基づく変更があれば審議される。</p>	状況をみて対応する。	本議題は割愛された。
20.その他の議題	<p>20.1 9月25日、27日の CIS/S 議事録とアクション事項および決定事項の確認</p> <p>20.2 2015年の開催場所</p> <p>20.3 その他の事項</p>	状況をみて対応する。	<p>20.1:9月25日、27日の運営委員会議事録案の主要点が確認された。</p> <p>20.2:2ヶ国が関心を示しているが正式な招待状は届いておらず、2015年の開催時期、場所は未定であると報告された。</p>

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
			<p>20.3:その他の事項</p> <p>(1) 中国国内委員会から提起されたバッテリー動作機器の妨害波測定法についての議論:上記の議題 5 項(4)および11 項(1)参照</p> <p>(2) ITU-RからのWPTに関する質問に対するI小委員会からの回答について:上記 18.1 項参照。</p> <p>(3) 日本国内委員会が提出した WPT に関する INF 文書(CIS-S 139 文書)を総会の議事次第に追加する案件:上記の議題 7.6 項参照・</p> <p>(4) 用語の定義、使用法について:特に議論はなかったが、A 小委員会の用語検討グループの検討状況も含め、運営委員会で継続検討することを申し合わせた。</p> <p>(5) Vice Chairman について:上記の議題 7.7 項参照。</p> <p>(6) 来年の CISPR フランクフルト会議の開催に向けて議長より、 ア. 事前に会議への参加登録を行っ</p>

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
			<p>た人数以上の多数が昼食を取ったため、問題が発生した。</p> <p>イ. これは会議登録していないメンバが会議に出席している可能性を示唆している。</p> <p>ウ. CISPR 大阪会議で日本国内委員会が採用した方法を考慮する必要があるのではないかと。との見解が示され、若干の議論があった。議長の求めにより、雨宮がCISPR 大阪会議で日本国内委員会が採用した方法の概要(メンバ席とオブザーバ席を分ける、メンバ用のプラカードを準備し、入室に際し持参して机の上に置く等)を紹介した。議論の結果、今後のCISPR 合同委員会の開催に向けた参考とすることとなった。</p>
21.次回会議の開催期日・場所	21.1 開催期日:2014年10月 開催場所:ドイツ	報告を聞き、開催期日、場所を確認する。	2014年10月13日～25日、ドイツ・フランクフルトで開催する。各SC議長が提案されたスケジュール案をReviewし、11月末までに確定することとなった。 なお。運営委員会の次回の電話会議は2014年1月14日(日本時間22:00より)

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
			に開催することとなった。
22. 閉会	議長が出席者に謝意を述べて閉会		議長がカナダ国内委員会と出席者に謝意を述べて閉会した。

【審議結果のポイント・今後の進め方・目標等について】

- (1) 議長の任期に関する IEC の新ルールに基づく D 小委員会議長以外は 2016 年に全員が退任することになるため、Deviation を適用できるか否かを含め今後 CAG で検討することとなった。
- (2) 総会で決定した政策の遵守について各国国内委員会に DC 文書で照会した結果が議論された。DC 文書で提案した 2 つの案はいずれも各国国内委員会から十分な支持が得られていないことが認識され、TF を設置して DC 文書の改定版を準備することとなった。
- (3) S/WG1 コンビナー(Ahn 委員)より、Smart Grid の EMC ガイダンス文書案を作成したことが報告され、運営委員会メンバによる Review を実施した後 INF 文書として発行することとなった。
- (4) P メンバが書簡で会議に参加する案件については、明確な規定あるいはガイドラインが必要であることが合意され、IEC/TO が検討して文書案を準備することとなった。
- (5) 2015 年の CISPR 会議開催場所については、2カ国が感心を示しているが正式な招待状が届いていないため、開催時期及び場所とも未定であると報告された。

CISPR オタワ会議 A 小委員会 対処方針と審議結果(案)

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
1. 開会	2013年9月25日	各国の出席状況を確認する。	Stecher 議長がカナダ国内委員会に謝意を延べて開会。 Showers 氏が逝去したこと、及び彼の CISPR への多大な寄与が紹介された。 参加国:18か国+IARU、参加者:議長、幹事、IEC 含めて 70 名。 我が国の出席者:11名(篠塚、田島、石上、雨宮、藤井、寺田、澤邊、秋山、久保田、廣瀬、杉浦)
2. 議事次第の承認	CISPR/A/1034A/DA	特にコメント無しで対応する。	議事次第に関し、Schaefer より Any other business に非侵襲測定における電流測定の不確かさについて追加検討の要請があった。その他については承認された。
3. 2012バンコク年会議議事録確認	CISPR/A/1024/RM	確認する。	議事録案はコメント無く承認。
4. IEC 中央事務局からの情報	IEC news	報告を聞く。	中央事務局の状況が IEC News に基づき報告。
5. 組織に関する事項		報告を聞く。	議長任期が 6 年プラス 3 年であることが、EC news として告知された。Stecher 現議長は該当するが後 3 年議長を続けることを表明した。
6. SC/A の管理的事項の確認			

6.1 議長職のアップデート			議長は2016年に交代することが告げられた。
6.2 IEC規格の新規課題、改訂、修正、メンテナンスに関する手続き		報告を聞く。	IEC規格の新規課題、改訂、修正、メンテナンスに関する手続きについて確認。
6.3 特許権に関するポリシー	AC/10/2007	報告を聞く。	Patent policy(AC/10/2007)に関する注意があった。
6.4 CISPR内のJTF運営規則	CISPR/1183/INF	報告を聞く。	CISPR内で組織されるJTFの運営規則を確認。
6.5 前回会議(2012-11)以降のFDIS及び規格の発行状況(統合版を除く)			
6.5.1 CISPR 16-1-2 Ed. 2.0 (Amd3の f1 & f2, FDIS 2013-xx)	CISPR22の伝導妨害波電圧測定装置に関する要求事項のCISPR16シリーズへの移行(A/1019/RVC)	報告を聞く。	2013年10月にFDIS発行予定。
6.5.2 CISPR 16-2-1 Amd 2 Ed. 2.0 (IS 2013-03)	CISPR22のAANと伝導妨害波測定に関する要求事項をCISPR16シリーズへ移行(A/1023/FDIS, A/1029/RVD)	ISの発行を確認する。	2013年3月にIS発行
6.5.3 CISPR 16-4-2 Amd 1 Ed. 2.0 (FDIS 2013-xx)	CDNE測定法の不確かさのCISPR 16-4-2への追加修正(A/1033/RVC)。	報告を聞く。	2013年10月にFDIS発行予定
6.6 編集委員会の状況	CIS/A/1017/INF 文書のeditorialチェック及び文法チェックを行うnative memberによる委員会の活動報告が行われる。	報告を聞く。	Editing committeeの活動が報告された。
6.7 用語の定義に関するアドホックグループの状況	CIS/A/887/INF CIS/A/845/INF	アドホックリーダーWinter(SA)からの報告を聞く。	Winter氏が欠席したので、議長が代理で報告を行った。

	CIS/A/836/INF CIS/A/813/INF CIS/A/788/DC CIS/A/709/INF CIS/A/653/DC		
6.8 CISPR 規格及び技術報告書の用語集について	CIS/A/1035/INF	報告を聞く。	CISPR/A の規格で使用されている用語集が、IEC Web サイトにアップデートされていることが紹介された。
6.9 CISPR/A 文書名及び文書番号の付番について	CIS/A/1036/INF	報告を聞く。	種々の CISPR/A 文書名及び文書番号の付番の方法とサンプルが紹介された。
6.10 CISPR/A 文書の統計		報告を聞く。	Bangkok 会議以降の文書配布及び進展状況が報告。 (1)バンコク会議後、10 のプロジェクトが次の段階に進んだ。 (2)バンコク会議後、24 の文書が回付された。 (3)CD が 1 個、DTR が 1 個、RVC が 3 個、FDIS が 7 個、2014 年 2 月までに文書が回付される予定。
7. 直近の提案と現地文書		報告を聞く。 日本からの提案文書があれば、議事次第に追加させる。	特になし。
8. IEC 中央事務局によって記録されている CISPR/A 作業プログラム	活動中のプロジェクトの状況、参加者、PL、所属 WG、スケジュールの確認。	確認を行う。	活動中のプロジェクトの状況が紹介され確認された。
8.1 WG1 関連			

<p>8.1.1 CISPR 16-1-1 am2 f1 Ed. 3.0: Normative annex defining calibration of measuring equipment: 測定装置の校正に関する要求事項</p>	<p>CISPR/A/1038/CD CISPR/A/1012A/CC CISPR/A/963/CD CISPR/A/950/RR (概要) 測定装置の校正に関する要求事項、用語の定義(Calibration, Verification, Adjustment)と Annex J (Normative)「校正に関する要求事項」の追加。</p>	<p>2nd CD が発行される予定。 1st CD(A/963/CD)に対し以下のコメントを提出した結果、“If calibration according to the manufacturer’s process is not possible, calibration to CISPR 16-1-1 requirements using the procedures called out in this standard shall be performed(もしメーカーの手順による校正ができない場合、CISPR16-1-1 で呼び出される手順を使用して、本規格の要求条件に対する校正を実行しなければならない)”の文章が追加されることになった。 『校正を、(1)一般物理量に関する校正及び(2)計測器の他の特性に関する校正、又は、(1)校正機関及び計測器の使用者によって行われる校正、及び、(2)計測器メーカーによって行われる校正、の2種類に分類せよ』報告を聞き、状況を見て対処する。</p>	<p>2nd CD の A/1038/CD がコメント受付中につき、議論なし。 11月30日にA/1038/CDのコメント締切、その後、CDV 策定へ進む予定、との説明があった。</p>
<p>8.1.2 CISPR 16-1-1 am2 f2 Ed. 3.0: Normative annex on the use of external preamplifiers: 外部前置増幅器の仕様における要求事項</p>	<p>CISPR/A/1__/RVC CISPR/A/1031/CDV CISPR/A/1003/CC CISPR/A/980/CD CISPR/A/966/RR (概要) 外部前置増幅器を測定用受信機で</p>	<p>前回 A/980/CD に対する我が国のコメント 『前置増幅器の1dBコンプレッション点と入力閾値レベルとの関係が(K.4)で示されているが、「十分下回る」という表現にとどまっておらず、具体的にどの程度にすればよいかかわからないので、具体的な数値情報を与えるべきで</p>	<p>A/1031/CDV に対しては1カ国の反対投票及び各国より20のコメントがあったが可決されたので FDIS に進む。 現在、RVCを作成中である。近々、回付予定である。</p>

	<p>使用する際に注意すべき技術的な点及び要求事項の追加。</p>	<p>ある』に対し、部分的に採用される(具体的数値は設定できないが、エッセンスは受け入れる)こととなった。</p> <p>A/1031/CDV は、A/980/CD の内容を改善し、より整理された原案となっており、我が国としては本 CDV には賛成としたうえで、下記の Editorial なコメントも併せて提出する。</p> <p>(1) 箇条 K.3 において、図 K.4 が何を示しているかの説明の前に、図の内容に係る説明を行っている文章構成となっているので、各文の順序を修正すべきである。</p> <p>(2) 箇条 K.3 のノッチフィルタ相互変調試験に関する記述において、“band-stop filter”と”notch filter”という述語が現れ、本規格案ではそれらが同様の意味で使用されているので、どちらかに述語を統一すべきである。</p> <p>報告を聞き、状況を見て対処する。</p>	
<p>8.1.3 CISPR 16-1-5 am 2 Ed. 1.0: Site validation methods corresponding to CISPR 16-1-6 antenna factor measurement methods: CISPR 16-1-6 における 自由空間アンテナ係数測定法に対</p>	<p>CISPR/A/1__/RVC CISPR/A/1028/CDV CISPR/A/997/CC CISPR/A/985/CD CISPR/A/970/CC CISPR/A/947/CD</p>	<p>A/1028/CDV に対し、我が国より下記のような技術的コメントを提出した(エディトリアルなコメントについては割愛)。なお、本文書は日本と英国が主導して作成しており、前回の A/985/CD においても我が国の主張は概ね受け入れられている。</p>	<p>A/1028/CDV に対し、2カ国の反対投票のみで可決され FDIS へ進む。</p> <p>各国より、155 のコメントが提出されたが、エディトリアルコメントが主である。</p> <p>コメントの取り扱いをアドホックで議論した。</p> <p>FDIS は2月までに作成される予定。</p>

<p>応するサイト評価方法</p>	<p>CISPR/A/933/CC CISPR/A/907/CD CISPR/A/882/MCR (概要) 自由空間アンテナ係数に関するアンテナ較正法が CISPR 16-1-6 に規定される予定であり、また RSM も CISP 16-1-4 に規定されているため、これに備えて周波数帯 30MHz～18GHz 用のアンテナ較正場所の要求事項を追加提案する。</p>	<p>(1) 4.4.5 項で、Normalized site insertion loss (NSIL)が引用されているが、この用語の定義が不明なので記述すべき。 A/1028/CDV は賛成多数で承認されたという情報を得ている。CDV に寄せられたコメント等の報告を聞き、FDIS への移行を確認する。</p>	
<p>8.1.4 CISPR 16-1-6 Ed. 1.0: EMC-antenna calibration: アンテナ較正法に関する規格の提案</p>	<p>CISPR/A/1_/RVC CISPR/A/1027/CDV CISPR/A/1008/CC CISPR/A/990/CD CISPR/A/967/CC CISPR/A/947/CD CISPR/A/925/CC CISPR/A/905/CD CISPR/A/870A/CC CISPR/A/858/CD CISPR/A/847/RVN CISPR/A/822/NP (概要) (1)30 MHz 以上を対象として、3 アンテナ法 (TAM)、標準アンテナ法(SAM)、標準サイト法</p>	<p>本件のプロジェクトリーダーは我が国のエキスパートであり、A/990/CD に対する我が国の意見は殆ど反映されている。 A/1027/CDV(9/6 締め切り)に対し、我が国よりコメントを提出する予定である。 A/1027/CDV に対する報告を聞き、FDIS へ移行するように対処する。</p>	<p>A/1027/CDV に対し、9カ国より 211 のコメントが提出されたが、多数がエディトリアルコメントであったため、FDIS へ進む。 アドホックで議論されたコメントに対する対処を元に RVC 作成中。 議長が本プロジェクトのリーダーとして献身的に貢献した杉浦氏と Alexander(イギリス)に謝意が述べられた。</p>

	<p>(SSM)の3種の較正法に付いて重点的に規定する。</p> <p>(2)TAM、SAM、SSMの基本式を提示。さらに各種アンテナについて、その形式毎に最も適当と思われる較正法を提示。さらに不確かさ算出の式も提示している。</p> <p>(3)測定サイトの種類 OATS、SAC、FAC 毎に各種のアンテナに適したアンテナ較正法の一覧表を提示している。</p>		
8.2 WG2 関連			
8.2.1 CISPR 16-2-1 am 3 Ed. 2.0: Introduction of CDNE: CDNE の導入	<p>CISPR/A/1_/FDIS</p> <p>CISPR/A/1026/RVC</p> <p>CISPR/A/1001/CDV</p> <p>CISPR/A/973/CC</p> <p>CISPR/A/946/CD</p> <p>CISPR/A/910/RR</p>	<p>(概要)CDNE を使用した 30MHz~300MHz における妨害波電圧の測定手順を CISPR16-2-1 の 9 章に追加する。</p> <p>A/1001/CDV は、25 カ国 (P メンバ) 中、賛成 22 票で承認されており、日本国は反対している。</p>	<p>議長より、現在 FDIS ステージであり、9 月に翻訳が終わり IEC 中央事務局に送られており、11 月中に FDIS が出る予定との説明があった。</p> <p>審議無し。</p>
8.2.2 CISPR 16-2-3 am 2 fl Ed. 3.0: Application of CMADs	<p>CISPR/A/1_/FDIS</p> <p>CISPR/A/1039/RVC</p> <p>CISPR/A/1021/CDV</p> <p>CISPR/A/1009/RVC</p> <p>CISPR/A/986/CDV</p> <p>CISPR/A/960/CC</p> <p>CISPR/A/939/CD</p>	<p>A/1021/CDV に関する投票結果 (CISPR/A/1039/RVC:8 月回付予定) 報告を確認する。FDIS に向けた状況を確認する。</p> <p>我が国は、CMAD の導入に反対してきている。</p>	<p>議長より、現在 FDIS ステージであり、IEC 中央事務局に送られている。11 月中に FDIS が出る予定と報告された。</p> <p>CISPR/A/1021/CDV は、25 か国 (P メンバ) 中、賛成 21、反対 4 で承認された。</p>

	CISPR/A/919/RR CISPR/A/900/DC		
8.2.3 CISPR 16-2-3 am 2 f2 Ed. 3.0: Transfer of radiated emission test methods from CISPR 22 (JTF A/I)	CISPR/A/1__/FDIS CISPR/A/1006/RVC CISPR/A/961/CDV CISPR/A/940/CC CISPR/A/926/CD CISPR/A/922/RR	CISPR/A/961/CDV は、25 カ国 (P メンバ) 中、反対 1 票のみで承認されている。日本国も賛成している。 現在、修正案 CISPR 16-2-3 Am2 (f1) Ed. 3.0 Am2-Revision of CISPR 16-2-3 on the application of CMADs とマージするため、f1 の CDV 結果 (H25.8 月予定) を待って進められる予定。FDIS のステージ状況を確認する。	議長より、現在、FDIS ステージであり IEC 中央事務局に送られている。11 月中に FDIS が出る予定と報告された。
8.2.4 CISPR 16-2-3 am 3 f1 Ed. 3.0: E-field strength to account for phase centre of log-periodic dipole array antennas: LPDA の位相中心を考慮した電界強度	CISPR/A/10_/CD CISPR/A/1043/RR	当初、CISPR/986/CDV として、CMAD の適用と合わせて提案されていたが、LPDA の位相中心に対する部分はすべてバンコック会議で分離され別のプロジェクトになった。CD 案が提案される模様。 報告を聞き、状況を見て対処する。	議長より位相中心位置の検討経緯状況が説明された。REVIEW REPORT (RR) が 8/16 に回付されており、技術内容を検討され、1stCD が 12 月までに策定予定。
8.2.5 CISPR/TR 16-4-5 am 1 Ed. 1.0: Conversion factor for the CDNE for conducted Disturbance measurements from 30 MHz to 300 MHz:30 MHz ~300 MHz の伝導妨害波試験法における CDNE の変換係数	CISPR/A/1__/DTR CISPR/A/1040/CC CISPR/A/1030/CD CISPR/A/1013/CC CISPR/A/988/CD CISPR/A/983/RR (概要)	A/1030/CD に対し、我が国より下記のようなコメントを提出した (エディトリアルなコメントは割愛)。なお、前回の A/988/CD においても、附属書 C の冗長性の改善を求める我が国のコメントは受け入れられている。 (1) 附属書 C の C.1 で現れる“DATech”は一般的に用いられる名称か?もし商品名な	2ndCD に対する CC が 8 月 9 日に回付され、9 カ国から 34 コメントが寄せられた。議長より、現在、DTR を作成中であり 11 月中に策定される予定との説明があった。

	<p>10m OATS における電界測定の確立された試験法 (established test method: ETM) に対する代替試験法 (alternative test method: ATM) の一つとして、30MHz から 300MHz までの周波数範囲における CDNE を用いた伝送妨害の測定法を提案し、その変換係数の定義、及び代替試験法の RRT の結果について述べた文書である。</p> <p>我が国は、妨害波測定方法の一つとして CDNE 法を検討することに反対しないが、CDNE 法と 10m 法との相関性について、現時点で技術的課題を確認しており、CDNE を用いた妨害波測定を 16-2-1 に導入することに反対してきている。</p>	<p>ら、一般的な名前を用いるべきである。</p> <p>(2) 本文中では消去された述語である”trend-line”が、図 C.9 のキャプションに残っている。もし”trend-line”を用いないのであれば、ここも変更すべきである。</p> <p>(3) “Poly”という言葉は一般的ではないので、”trend-line”をそのまま使い続けるか、括弧書きの(mean value)という言葉で補足すべきである。</p> <p>CDNE 法と 10m 法との相関性について、バンコク会議においても、両者の妨害波測定結果に大きな違いが生じることがあることを指摘してきた。本 CD 案での課題について再度訴求する。</p>	
9. TC77 との協調	CISPR/1133/INF, JTF からの報告	報告を聞き、状況を見て対処する。	
9. IEC 61000-4-20 Ed. 2: TEM	CISPR/A/1042/INF CISPR/A/991/INF CISPR/A/977/INF CISPR/A/957/INF	報告を聞き、状況を見て対処する。	Nottingham にて 8 月末に WG 開催、活発な議論、Large EUT 及びケーブリングの議論があった。Ed.3 では Small EUT のみ。
9.2 IEC 61000-4-21 Ed. 2: REV	CISPR/A/1041/INF CISPR/A/992/INF CISPR/A/979/INF CISPR/A/962/INF	報告を聞き、状況を見て対処する。	2013 年 9 月に EMC Europe に併せて WG 開催。次回 WG は来年の予定。Active contribution はなかった。
9.3 IEC 61000-1-6: Corrigendum	CISPR/A/1044/INF	報告を聞き、状況を見て対処する。	TC77 が Corrigendum を提案(77/449/INF) なお JTF MU はすでに disbanded。

10. 他の CISPR 委員会との共同作業	CISPR/1183/INF CISPR/1155/INF	報告を聞き、状況を見て対処する。	
10.1 CISPR B			
10.1.1 GCPC に対する妨害波の要求条件 WG1: DC-AN の仕様 WG2: 試験方法の規定と比較 WG2: 測定不確かさの規定	CISPR/A/1037/INF CISPR/A1032/DC CISPR/A/999/DC CISPR/A/1018A/INF WG1: DC-AN の仕様 WG2: 試験方法の規定と比較 測定不確かさの規定 CISPR/A/1018A/INF	アドホックでの議論結果が報告される予定。 報告を聞き、状況を見て対処する。	JTF が 9/25PM に開催された。JTF の設立経緯を議長が説明した。具体的課題は、パソコン装置の伝導妨害波試験に用いる DC-AN の技術仕様の検討である。コンビーナは A 及び B の議長がアクティング議長として就任した。参加メンバは募集中。日本からは既にエントリ済みの吉岡氏(B 小委員会)に加え、雨宮氏が参加することになった来年総会(フランクフルト)までに、DC-AN の技術仕様に関する規定案が作成される。
10.1.2 CISPR 11 に関係する装置寸法の基準	CISPR/B/496/RVD CISPR/B/492/FDIS CISPR/A/819/INF CISPR/A/778/INF CISPR/A/765/DC CISPR/B/434/CD	報告を聞き、状況を見て対処する。	アドホックが発足した。リーダーは Stecher。CIS16-2-3 の修正案を検討する。検討項目は、EUT サイズ、アンテナ、ディスタンスなど。課題内容の概要を Stecher が説明した。説明資料は、後日 WG2 フォルダにアップされる。2014年2月までに CD 案を策定し、WG へ回付する予定。今回の資料に対するコメントは 12 月までに Stecher へ送る。また、アドホックへの正式参加を募集しており、希望があればメールにてリーダーへ連絡する。

10.1.2 CISPR D: CISPR 25 に対する暗室の有効性検証	CISPR/A/1022/INF CISPR/A/993/INF CISPR/A/976/INF CISPR/A/957/INF CISPR/A/943/INF CISPR/D/388/CC CISPR/A/931/INF CISPR/D/386/CD CISPR/A/743/INF CISPR/A/727/DC	報告を聞き、状況を見て対処する。	Chamber Validation が CISPR 16-1-2 と異なる。2 つの basic method を記述した CD が CISPR/D で回付されている。
10.3 CISPR/F: 照明機器の 30-300 MHz の周波数帯での CDNE による放射妨害波測定	CISPR/A/811/INF CISPR/A/782/INF CISPR/A/768/DC	報告を聞き、状況を見て対処する。	審議無し。
10.4 CISPR H: 放射妨害波測定に対する反射箱の使用		報告を聞き、状況を見て対処する。	EUT の指向性について、様々な検討が行われていることが紹介された。この作業状況を INF で紹介する予定である。
10.5 CISPR I: 代替擬似通信回路網 AAN(ISN)	CISPR/I/385/DC CISPR/A/812/INF CISPR/A/791/DC	shunt-type AAN に関する技術的検討結果を紹介する予定(WG)。 報告を聞き、状況を見て対処する。	雨宮が関連文書として I/393/INF 及び I/394/ INF の 2 文書の追加を要請した。WG1 で、杉浦氏が従来型のシャント型 AAN の問題点の指摘と改良型の提案を行った。LCL が 35dB 以下の通信線の場合、従来型だと 1dB の誤差が生じるが、非対称トランスを使用した構造に改良することで改善できることを示した。今後、I 小委員会での規格化と平

			行して CISPR16 シリーズへの規格化が検討される。
10.6 CISPR B, D, F, H 及び I			
10.6.1 CISPR 規格における 30MHz 以下の放射妨害波測定	CISPR/A/10_/RR CISPR/A/989A/INF CISPR/A/978/DC CISPR/1211A/RQ	アドホックでの議論結果が報告される予定。	杉浦及び Jang よりアドホックの議論結果が報告された。
WG1: 試験サイト及びアンテナの仕様(CISPR 16-1-4)		本プロジェクトのリーダーは我が国のエキスパートである。状況を見て対処する。	杉浦の報告(WG1): 検討する下限周波数を 150 kHz から 9kHz に拡張した。来年 4 月までに Beeckman, Kritz, Fujii, Trautnitz がドラフト文書を WG に配布し、来年フランクフルトで議論する。その後 CD を作成する。コンペーナに Kritz(オーストリア)が就任した。
WG1: サイト評価法(CISPR 16-1-5)		本プロジェクトのリーダーは我が国のエキスパートである。状況を見て対処する。	
WG2: 放射妨害波測定法(CISPR 16-2-3)		報告を聞き、状況を見て対処する。	Jang の報告(WG2): 6 月にベルリン会議を実施した。開始周波数を 9kHz とする。ループ
WG2: 測定不確かさ(CISPR 16-4-2)		報告を聞き、状況を見て対処する。	アンテナ高さ、方向に関する技術仕様を議論し、WG 文書案を 12 月末までに WG へ配布する。 セクレタリより、1stCD を来年中に策定するために、16-4-2 の不確かさのバジェットなども含めた案を、次回会合のフランクフルト会議へ提案できるよう確認された。
10.6.2 1GHz 以上の放射妨害波測定	CISPR/A/10_/RR	アドホックでの議論結果が報告される予定。	アドホック(リーダー: Martin(イギリス))で議論された。

WG1: 試験サイト及びアンテナの仕様(CISPR 16-1-4)		報告を聞き、状況を見て対処する。	① アンテナパターンに関し、CIS16-1-4,5,6の規格修正を検討し、2, 3ヶ月以内に少人数で修正案をまとめる予定。
WG1:サイト校正(CISPR 16-1-5)		報告を聞き、状況を見て対処する。	② EUTサイズと距離については、テストボリュームの定義、アンテナの高さ、EUTとの距離などの技術仕様を固める予定。
WG1: アンテナ校正 (CISPR 16-1-6)		報告を聞き、状況を見て対処する。	来年4月までに案をまとめ、次回会合(フランクフルト)までに 1stCD を提出する予定。
WG2: 放射妨害波測定(CISPR 16-2-3)		測定法に関するアドホック会議(2013/07)の内容を確認する。 報告を聞き、状況を見て対処する。	
10.6.3 ジグ吸収クランプ校正法 (CISPR 16-1-3): WG1	CISPR/A/10_/RR	報告を聞き、状況を見て対処する。	Medler が、2つの文書(校正セットアップの改良に関する文書)を紹介した。WG1 で議論した。修正案作成のボランティアを募集している。12月までにドラフト案を作成する予定。
10.6.4 30 MHz～1 GHz における装置寸法の許容範囲 (CISPR 16-2-3): WG2	CISPR/A/10_/DC	報告を聞き、状況を見て対処する。	Stecher が、Some Idea について、26日午後の EUT size アドホックで議論する。
10.6.5 その他			SC/H 議長(Gorini)が、FAR 評価(1GHz 未満)について情報提供を行った。 IEC 61000-4-22と CISPR 16-1-4 が異なっていることを指摘した。
10.7 CISPR S			
10.7.1 スマートグリッド—150 kHz 以下の測定装置と測定方法		報告を聞き、状況を見て対処する。	23日 で SC/S WG1 でドラフトが議論されている。将来 TR になる予定。
10.7.2 妨害波測定における FFT の仕様に関する CISPR ロードマップ	CISPR/116B	報告を聞き、状況を見て対処する。	FFT タイプの受信機の使用について、ほとんどの SC が承認していることが報告された。

プ			
10.8 WG 報告と SC の注意が必要な項目	(議事次第でカバーしていない事項)	報告を聞き、状況を見て対処する。	
10.8.1WG1	バンコクで開催された WG1 の議事録に基づき、課題の確認。	報告を聞き、状況を見て対処する。	追加事項無し。
10.8.2 WG2	バンコクで開催された WG2 の議事録に基づき、課題の確認。	報告を聞き、状況を見て対処する。	追加事項無し。
11. 議事次第にない事項			前回バンコク会議における Action Items を確認することで、議事録にない事項を確認した。
12. その他の事項			サイト評価における NSA 測定に対する位置決め要求条件を WG1 で議論する。 Shaefer(アメリカ)より、CVP と電流プローブを用いた測定法での不確かさ規定に関して、Annex B、B18 の記述では、電流、電圧測定の不確かさを算出するのが困難であるとの問題提起がなされた。CISPR22、CISPR32 に関する測定法であるので、I 小委員会を中心に WG2 にアドホック発足を検討する。
13. 今回の会議で割り当てられたアクションアイテムの確認		確認する。	今回の Action Item は 3 項目であることが確認された。
14. 次回会議の場所と日程		報告を聞く。	2014 年 10 月 13 日～24 日、フランクフルト(ドイツ)にて開催予定。
15. 閉会			議長が参加者とカナダ国内委員会に謝意を

			表して閉会。
--	--	--	--------

【審議結果のポイント・今後の進め方・目標等について】

- (1)30 MHz 以上を対象とした EMI 測定用アンテナ校正(3アンテナ法、標準アンテナ法、標準サイト法)に関する規格(CISPR16-1-6)が, FDIS に移行することが決定した。
本課題は 1994 年に開始され、我が国がリーダーシップをとって規格原案を提案し、多くの議論を重ねてきた成果である。
- (2)30MHz 以下の放射妨害波測定に関して、2014 年フランクフルト会議までに測定法、サイト評価法の CD ドラフト案が準備されることになった。
- (3)CMAD の適用及び CDNE 法の CISPR16 シリーズへの導入が FDIS に進んでしまった。CMAD は適合性試験結果を低く評価してしまうデメリットがあること、CDNE は従来の 10m 法との相関性に関する懸念から反対して更なる検討の必要性を指摘してきた。IS になってしまう可能性が高いが、今後も説得力のある実測結果を示して我が国の懸念について賛同を得るための努力が必要である。

CISPR オタワ会議 B 小委員会 対処方針と審議結果(案)

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
1.開会	CISPR/1246/AC CISPR/B 全体会議:2013 年 9 月 30 日(月) 14:00～17:30 WG1 の MT 会議:2013 年 10 月 1 日～4 日 WG2 会議:2013 年 10 月 1 日(火)	<ul style="list-style-type: none"> • 各国の出席状況を確認する。 	B 小委員会の各会議が下記のように行われた。 <ul style="list-style-type: none"> - CISPR/B 全体会議 2013 年 9 月 30 日(月)14:00～17:30 - WG2 会議 2013 年 10 月 1 日(火)9:00～12:00 - MT-GCPC 会議 2013 年 10 月 1 日(火)14:00～17:30、10 月 2 日(水)9:00～11:00 - MT-GM(WG1)会議 2013 年 10 月 2 日(水)11:00～17:30、10 月 3 日(木)14:00～17:30、10 月 4 日(金)9:00～12:00 • B 全体会議参加者:議長、国際幹事を含む 63 名(19 カ国および IARU)、オブザーバー16 名(10 カ国および IARU)
2.議事次第の承認	CISPR/B/571B/DA	<ul style="list-style-type: none"> • 承認する。コメントなし。 	<ul style="list-style-type: none"> • 関連文書に追加があり B バージョンが発行されたと議長より説明があった。
3.バンコク会議議事録確認	CISPR/B/553/RM	<ul style="list-style-type: none"> • 確認する。コメントなし。 	<ul style="list-style-type: none"> • 議長より、各国内委員会から議事録に対

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
			しコメントはなく、懸案事項も特にないとの説明があり、承認された。
4.IEC 中央事務局からの連絡事項	IEC News Ottawa 2013	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡を聞き、必要に応じて今後の活動に反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ B 小委員会に関連するものとして、下記が紹介された。 ・ CISPR 総会で B 小委委員会議長の 3 年間の任期延長が承認された。任期終了は 2016 年となる。

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
5. 標準化政策関係			
5.1 運営委員会および CISPR 総会からのガイドライン	<p>CISPR/1251/INF CISPR/1243/INF CISPR/1258/INF CISPR/B/563/DC CISPR/B/565/INF</p> <ul style="list-style-type: none"> • CISPR 発行 Q 文書、DC 文書の結果に関する最新情報 • CISPR 規格の効率的改訂 • 空隙ワイヤレス給電に対する要件の CISPR11 を含めた CISPR 製品規格の追補 • 系統連系機器に対する 9kHz から 150kHz の電磁両立性確立に関する最新情報 	<ul style="list-style-type: none"> • CISPR 規格の効率的改訂に対しては、これまで通り、共通技術という条件だけでなく、電磁環境を考慮した規格適用が必要であることを主張する。共通技術からなる他の製品への既存規格適用は、適用妥当性を十分に立証することが必要であることを主張する。 • 9kHz から 150kHz の領域の伝導妨害については、B 小委員会で審議を開始することに合意する方針で対応する。要請があれば、電磁妨害による国内障害例を提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> • CISPR 規格の効率的改訂については、CISPR/1243/INF 文書が紹介されたのみであった。 • 150kHz 以下の電磁障害については、議長より SC77A/WG8 で審議している電磁両立性レベルの確立を待ち、将来の作業項目として考慮しておくとの説明があった。 • CISPR/B/1258/INF は WPT に関連するものであり、議長より EMC の最低限の要求は CISPR11 が包含しているとの説明があった。また、議長より、CISPR11 では、IH 調理器に関する記述とそれに関連する 150kHz 以下の記述が削除されるとの説明があった。 • CISPR/B/563/DC に関連し、議長より WPT の審議を行っている TC69 の審議状況につき、CDV の準備を進めているとの報告があった。 • CISPR/B/565/INF に関連し、鉄道に関する EN 規格からの 150kHz までの許容値の削除についての B 小委員会の見解

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
			として、鉄道サービスを守る上でも削除すべきではないとの回答を行ったとの報告があった。
5.2 CISPR の WG 内での作業に関する公式ルール	CISPR/1183/INF CISPR/B/575/INF CISPR/B/572/INF <ul style="list-style-type: none"> ・ CISPR 内部の JTF に関するルール ・ CISPR/A から提供される用語と定義にリストの使用 ・ CISPR 規格に記載の FFT 測定の参照適用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CISPR/B/1183/INF に関連し、CISPR/A との JTF について議長より報告があった。初回会議は 9 月 25 日に開催されたが、コンビーナが未定との報告があった。 ・ CISPR/B/575/INF に関し、CISPR 規格の定義に関するデータベースについて、製品規格の改訂時に、正式な定義を使用するようにとの説明が議長よりあった。 ・ CISPR/B/572/INF に関し、FFT 測定は必ずしも測定時間を短縮することはないとの説明があった。FFT は有効な測定結果を得るにはオブザベーションタイムが必要であるとの説明があった。FFT 測定器に関して、CISPR11 は最新の CISPR16-1-1 を参照しているとの報告が議長よりあった。
6. 現在進行中の CIPSR11 改訂	CISPR/1257/INF		<ul style="list-style-type: none"> ・ CISPR/1257/INF に関し、「CISPR/B で

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
	CISPR/1249/INF		<p>は”Disturbance”と”Emission”の用語に関し、議論する必要はない。」「運営委員会での審議結果を待ち、用語グループからのガイダンスを待つ。」との報告が議長よりあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CISPR/1249/INF に関しては、確認が行われたのみであった。

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
6.1. プロジェクト:全般メンテナンス	<p>CISPR/B/567A/CC CISPR/B/573/INF CISPR/B/557/CD CISPR/B/547A/CC CISPR/B/568/CC CISPR/B/559/CD CISPR/B/548A/INF CISPR/B/587/INF</p> <p>MT-GM からの報告</p> <ul style="list-style-type: none"> - 次段階(CDV)に関する MT-GM の計画の確認 - CISPR/B/557/CD 及び CISPR/B/559/CD に関する各国コメント対処に向け、遅くとも 2014 年春の CDV 発行に関する MT-GM への権限付与 <p>注記)10月3日、4日で開催される MT-GM 会議の結果が CDV となる見通し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • CDV 発行に賛成する方針で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> • WG1 コンビナーナより MT-GM での活動状況の報告があった。二つの CD は分離したまま CDV 段階へと移行することが合意されているとの説明が WG1 コンビナーナよりあった。 • 決定事項 1: CISPR11 第 5.1 版改訂 CISPR/B/557/CD は 2014 年 2 月に CDV を発行するよう MT-GM にて準備を進める。各国コメントの確認結果 CISPR/B/567B/CC を後日発行する。 • 決定事項 2: 1GHz 超のエミッション測定 of 整備に関し、CISPR/B/568/DC は次段階へ進むことが合意され、2014 年 2 月に CDV 発行するよう 10 月末までに文書を IEC 中央事務局に提出するよう MT-GM に要請があった。 • CISPR/B/573/INF で言及されている 75kVA 超機器の伝導エミッション許容値改定案について、WG1 より SC17B (低圧開閉装置及び制御装置) に回答するとの説明が WG1 コンビナーナよりあった。 • 日本が提案した、グループ 2 機器への「工業用レーザー発振器」の追加

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
			<p>については、以下の名称を追加することで合意した。</p> <p>“Industrial laser oscillator by high-frequency discharge excitation</p> <p>・”B/559/CD(電子レンジ妨害波測定において、現行の変動性妨害波のピーク許容値を示した表 15 を廃棄し、測定点数などを増やした重み付け測定だけにする提案)に対し、日本から衛星放送への障害を排除するためにはピーク許容値が必要であることを実測結果から示した反論をした。</p> <p>MT-GM での議論で 11.7-12.7GHz だけはピーク許容値を残すことで合意した。</p>

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
<p>6.2. プロジェクト:系統連系電力変換装置(GCPC)</p>	<p>CISPR/B/581/INF CISPR/B/576A/CC CISPR/B/574/INF CISPR/B/561/CD CISPR/B/546A/CC CISPR/B/582/INF CISPR/B/577A/CC CISPR/B/562/CD CISPR/B/544A/INF CISPR/B/590/INF CISPR/B/583/DC</p> <p>MT-GCPC からの報告</p> <ul style="list-style-type: none"> - CISPR/B/561/CD と CISPR/B/562/CD の次段階(CDV)に関する MT-GCPC の計画の確認 - 遅くとも 2014 年春の、各国投票への CDV 提出についての確認 <p>注記)2013 年 6 月の MT-GCPC パリ会議の成果である INF 文書が CDV 原案となっている。</p>	<p>・太陽光発電システムの系統連系パワーコンバータ(GCPC)に関して、定格電力 20kVA 以下と 20kVA 超の装置についてそれぞれ CD が発行された。MT-GCPC 会議での各国コメントに対する審議の結果、INF 文書として発行された CDV の案が正式に CDV として早期に発行され、プロジェクトが進展するように対応する。</p>	<p>・ MT-GCPC コンビナー井上氏より、2012 年バンコク会議からの進捗状況について報告があった。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) イギリスのチュルトナムで中間会議が開催された。 (2) 小容量と大容量の GCPC の二つの 2nd CD(561/CD, 562/CD)の 2013 年 2 月の発行が合意された。 (3) 附属書 Z に対する意見照会についても 2013 年 2 月発行で合意された。 (4) 561/CD と 562/CD に対する各国コメントの確認のため中間会議が 2013 年 6 月にパリで開催され、小容量と大容量の GCPC のそれぞれに対し CDV を準備することが合意された。 (5) CDV 案として 581/INF, 582/INF がオタワ会議前に発行された。 <p>・ MT-GCPC コンビナーが、次段階へ進むために CDV の IEC 中央事務局への提出について、全体会議の承認を求め、以下が決定した。</p>

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 決定事項3: CISPR11を補完する小容量 GCPC のエミッション要件について、次段階へ進むために 2014 年 2 月までに CDVを発行する。CDV案を10月末までに IEC 中央事務局に提出する。MT-GCPC は 581/INF の最終確認を行う。 ・ 決定事項4: CISPR11を補完する大容量 GCPC のエミッション要件について、次段階へ進むために 2014 年 2 月までに CDVを発行する。CDV案を10月末までに IEC 中央事務局に提出する。MT-GCPC は 582/INF の最終確認を行う。 ・ 決定事項5: 附属書 Z に関し、ドイツより商用周波数の漏れ電流に関する対策追加の提案があったが、日本より回路共振による飽和現象と商用周波数の漏れ電流の違いを説明し、ドイツ提案は、附属書 Z に反映しないことで合意した。商用周波数の漏れ電流については、一般的な問題で WG1 に関連することであるので、CDV は現状のままとし、ドイツ提案

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
			<p>については次期改訂項目とすることで合意した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 決定事項 6: MT-GCPC コンビーナ井上氏より、コンビーナ退任と新しいコンビーナ吉岡氏への引継ぎについて提案があり、合意された。 ・ 議長より「CISPR/A による擬似回路網と直流端子測定法の妥当性確認と太陽光発電システムからの放射妨害推定のための適切なモデルの検討」に関し、MT-GCPC ではまだ課題があるとの助言があった。

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
6.3. プロジェクト:1GHz 超帯域の無線周波数障害評価のための APD 法と許容値	<p>CISPR/B/566/RVC CISPR/B/552/CDV CISPR/B/538/CC</p> <p>承認された CDV のその後の進捗状況についての議長からの報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトが FDIS 段階となっていることと、更新された CDV が FDIS として登録予定であることの確認 - CENELEC での投票結果の確認 	<ul style="list-style-type: none"> • 1-18GHz 帯電子レンジ放射妨害波の weighting 測定の代替法として採用する APD 法が、CDV 投票の結果 96%の賛成で承認された。MT-GM で審議している他の関連事項の CDV 投票結果と合わせて CISPR11 Ed6.0 となる FDIS に進むことを確認する。 • CDV が承認されたことから任務が終了した MT-APD が解散することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 議長より、CDV が承認されたとの報告があった。 • MT-APD コンビナー篠塚氏より、MT 作業終了にあたってメンバーに対する謝辞の後、概要報告が行われた。 <p>(1) 国際メジャメントキャンペーンの実施により現行の重み付け測定との等価性が確認されたので、APD 測定を代替測定法とすることができる。</p> <p>(2) MT は終了したので、メンバーは他の作業へ寄与するよう要請する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 決定事項 7:プロジェクト f3「1GHz 超帯域の無線周波数障害評価のための APD 法と許容値」は終了し、CDV に編集上の修正を加えたものが 2013 年 11 月までに FDIS として登録される。
7. CISPR11 の次期改訂	<p>CISPR/1243/INF CISPR/B/513/RR</p>		
7.1. 中型装置からの放射妨害波の測定	<p>CISPR/B/586/INF CISPR/B/560/DC</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 意見照会文書の回答意見として提出した下記意見に沿って対応する。 <p>コメント「CISPR 16-1-4 では、測定距離 5 m</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 5m の測定距離提案は新たな測定距離の要望を生むとして、全体会議ではあまり支持が得られなかった。議長は、WG1

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
	<p>新たな測定距離(5m)の導入と許容値の規定</p>	<p>法での NSA 評価の定義がされていない。」</p> <p>【NC への質問事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在進行中の CISPR 11 Ed.5.1 のメンテナンスにおいて、上記提案を支持するか？ 2. 支持するのであれば、上記の提案に対する意見はあるか？ 3. 擬似又は実機装置での距離比較データの提供は可能か？ <p>【日本からの回答】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在進行中の CISPR 11 Ed.5.1 のメンテナンスにおいては「CISPR/B/560/DC」の提案は支持しない。 2. 支持しないので意見なし。 3. 現時点においては、擬似又は実機装置での距離比較データは提供出来ない。 	<p>において再検討するよう要請した。</p> <ul style="list-style-type: none"> • WG1 での審議の結果、妥協案として、3m 測定を中型装置にも拡大適用すること、5m 測定距離は次期改訂まで保留とすることで合意し、下記が決定した。 • 決定事項 8:プロジェクト #6「中型装置の 3m 離隔距離測定」を、CISPR11 改訂の修正案 1 として作業項目に追加する。 • CD 文書を 2014 年 2 月までに準備するよう MT-GM に要請があった。 • 注)RRが発行された。

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
7.2. 放射妨害波測定	CISPR/B/585/INF CISPR/B/570/DC CISPR11 での 6 面電波暗室の適用と許容値の規定	<ul style="list-style-type: none"> 意見照会文書の回答意見として提出した下記意見に沿って対応する。 コメント「この提案に対する技術的な検討が不十分なので、CISPR11 Ed.5.1 のメンテナンスではなく、次の Ed.6.0 のメンテナンス事項とすべきだ」 	<ul style="list-style-type: none"> WG1 で検討が行われ、作業項目に追加するために、2014 年初めまでに CD 文書を提出することとなった。賛成を得るために、関連する CISPR16 シリーズに従った 6 面電波暗室の規定を取り入れることで合意した。 IEC61000-4-22(6 面電波暗室設備及び 6 面電波暗室における測定法に関する EMC 測定の規格)に従った 6 面電波暗室の規格を取り入れるための作業は、次期改訂まで保留するよう議長より提案があり、以下が決定した。 決定事項 9:プロジェクト f7「放射妨害波測定- CISPR11 での 6 面電波暗室の適用と許容値の規定」は、CISPR11 改訂の修正案 1 として作業項目に追加する。 注)RRが発行された。
7.3. 空隙ワイヤレス給電に対する要件の CISPR11 追補	CISPR/B/591/INF CISPR/B/580/INF CISPR/B/563/DC	<ul style="list-style-type: none"> B 小委員会に電気自動車用 WPT の許容値及び測定法を検討するためのメンテナンスチーム(MT)の設置を提案する。なお、その MT には、日本からエキスパートを出席させ、そのエキスパートをサポートする団体を用意するなど、日本として積極 	<ul style="list-style-type: none"> 議長より CISPR 総会で日本の提案が承認されたことが報告された。 B 小委員会と F 小委員会ではすでに作業が開始されており、I 小委員会では議題案に上っていることが確認された。 B 小委員会では、グループ 2 の定義の

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
		的に推進していく。	<p>補完として作業が進められていることが確認され、CISPR11 補完としては、試験条件、試験方法、150kHz 以下の許容値が今後の重要な議題となることが議長より確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 全体会議にて、B 小委員会での WPT に関する今後の作業を促進するために MT を設立することを提案するプレゼンテーションを日本より行った。詳細についての審議は WG1 で行われた。 • WG1 での審議の結果、日本が設立を提案した MT ではなく、日本が主導する TF として作業が進められることになった。2013 年 10 月末までに、具体的な作業項目(ToR)を WG1 に提出することを日本より回答した。

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
8. CISPR TR 18 (WG2)の改訂	CISPR/B/554/RR CISPR/B/555/RR CISPR/B/556/RR		
8.1. WG2 からの報告	CIS/B/589e/PW CISPR/B/WG2/13-08/RM - 現在進行中のプロジェクト(CISPR TR 18 のメンテナンス)の状況確認	<ul style="list-style-type: none"> • メンテナンスすべき項目と分担、作業状況などを確認の上、1st CD の内容と今後の作業に関する議論に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 議長より、昨年のバンコクでの B 小委員会の全体会議以降の WG2 の活動状況と成果について下記の概要報告が行われた。 <ul style="list-style-type: none"> (1) バンコク会議後に、CISPR TR 18 の改訂が B 小委員会の作業項目に追加された。 (2) WG2 中間会議が 2013 年 3 月に東京で開催され、CD 案第 1 版の準備について検討した。改定案の検討時間を考慮して CD 発行については 2014 年を予定している。 • 議長は、現在検討中の CISPR TR 18 改訂の期日を守るため、作業項目に記載された工程を守るよう WG2 に要請した。 • WG2 での審議結果は以下ようになった。 • 日本からの提案に基づき、CISPR/TR18 「架空送電線および高電圧機器の電波雑音特性」第 3 版の 1stCD を本年末か

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
			<p>来年初めに出すことになった。改定内容は、上限周波数を 300MHz から 3GHzまでの拡大、DC 送電設備からの雑音に係る最新の交直変換方式や雑音予測手法などの追加、およびスマートグリッド関連情報の追加となる見込み。</p>

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
9. CISPR TR 26 (WG2)の改訂			
9.1. WG2 からの報告	CISPR/B/588/RQ CISPR/B/578/Q - 提案プロジェクト(CISPR TR 26 の作成)の CISPR/B 作業計画への包含の決定	<ul style="list-style-type: none"> 我が国からは CISPR/B/578/Q に対して賛意を表明してエキスパートを推薦している。しかし、本プロジェクトの再開には十分な支持が得られず、将来の新規作業項目に関する議論が行われる見込みであるので、現地の状況に応じて意見の表明、提案を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 議長より、提案プロジェクト(CISPR TR 26 の作成)の CISPR/B 作業計画への包含に関する質問の回答について報告が行われた。 各国からの回答では、作業開始と CISPR/B の作業項目への包含について、十分な支持が得られなかった。 全体会議では、回答書 588/RQ の決定事項を承認し、WG2 に提案プロジェクトを予備段階に戻すよう要請した。また、議長は、もし作業を続けたい場合は、新規作業提案を提出するよう提案した。 議長は、“市場ニーズ”、“TR 使用の目的”、“製品規格との違い”や”TR 使用者の関心が無ければ、プロジェクトを開始することが出来ないと指摘した。また、関心のある機関が TR のニーズを示さなければ、プロジェクトが成立しないとの説明が議長よりあった。 “製品規格との違い”については、TC9 との協同作業を推奨すると議長より説明があった。

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
			<ul style="list-style-type: none"> • CISPR/B 事務局は下記の決定事項を示し、作業の正式な開始は延期することとした。 • 決定事項 10: 当面、CISPR TR 26 第 1 版プロジェクトは、CISPR/B 作業項目に追加しない。 • WG2 での審議結果は以下のとおり。 • CISPR/TR 26 (電気鉄道の電波雑音特性—測定法と許容値の決定方法のガイド—)については、2003 年に一旦プロジェクトが取り消された経緯があるため、新規提案 (NP) の手続きから始めることになった。

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
10. 他の CISPR 小委員会との共同作業			
10.1. CISPR/A	<p>A&B JTF Minutes Ottawa CISPR/B/579/INF CISPR/B/564/DC CISPR/A/1032/DC CISPR/A/1018A/INF CISPR/B/584/INF</p> <ul style="list-style-type: none"> - 30MHz 以下での磁界妨害強度測定に対する OATS と SAC の妥当性確認 - DC-AN および CISPR/B/561/CD と CISPR/B/562/CD で提案されている試験方法の妥当性評価に関する CISPR/A との現在進められている交渉状況についての議長からの報告 - CISPR/A&B JTF の設立の確認 	<ul style="list-style-type: none"> • 30MHz 以下の測定法の明確化が求められており、A 小委員会でのプロジェクト設立を支援するとともに、B 小委員会エキスパートとしてデータなどの資料提供のできる限りの対応を行う。具体的な作業については、B 小委員会議長の方針を確認し、対応可否について検討する。 • GCPC に関連する事項については、MT のリーダー国としてプロジェクトが進展するように対応する。 • JTF 設立についての CISPR/A アドホック会議(9月25日開催予定)の状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「30MHz 以下での磁界妨害強度測定に対する OATS と SAC の妥当性確認」について、議長よりグラント面付き試験場の妥当性評価が A 小委員会の作業計画にあわせて進められているとの報告があった。議長より、WG1 メンバーに、試験場および測定方法に関する妥当性評価について積極的に寄与するよう要請があった。 • 議長より、A 小委員会と B 小委員会の JTF が設立されたことが報告された。JTF の正式名称は CISPR A&B JWG3 となった。議長より、初回会議は9月25日に開催され、次回は2014年のCIPSR会議期間に開催されるとの報告があった。561/CD の附属書 X の内容に関する評価と確認のために、2014 年半ばに JWG3 の中間会議が必要となるかもしれないとの議長からの報告があった。JWG3 の作業項目は 564/DC に記載さ

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
			<p>れており、579/INF の勧告に従い修正が行われたとの議長からの報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • JWG3 の副コンビーナは B 小委員会議長が引き受けたが、コンビーナを選任は 2014 年 10 月のフランクフルト会議まで延期することとなった。

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
10.2. CISPR/H	CISPR/B/574/INF CISPR/B/558/INF CISPR/H/255/INF CISPR/H/250/DC - GCPC の直流入力端子での伝導妨害波に関するモデルと許容値の立証 - 「許容値決定のためのモデルに対する補完についての CISPR/H との共同作業 (CISPR/B/558/INF)」と「設置された GCPC の無周波干渉可能性の定量的予測を可能にする相関係数について保留事項」についての議長からの報告。	<ul style="list-style-type: none"> モデルに関しては、これまでどおり、許容値導出に根拠として日本から提出した文書に従った対応を行う。 共同作業に関する議長の報告を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> B 小委員会との JTF 設立の意見照会文書が回付されたが、設立のためのエキスパートの登録数が足りず、設立は承認されなかった。しかし、CISPR/H/WG1 で検討を行うことが合意された。 許容値導出の根拠となるモデル作成について、MT-GCPC でも継続して審議するよう議長より要請があった。
11. IEC 製品委員会との共同作業			
11.1. TC69	CISPR/B/569/INF CISPR/B/580/INF CISPR/B/563/DC - 電気自動車用充電器に対する型式試験要件の該当する TC69 製品規格と CISPR11 の調和についての TC69 との今後の共同作業に関する議長からの報告	<ul style="list-style-type: none"> 報告を聞き、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝導充電器の EMC 規格制定に関しては、CISPR/B/WG1 コンベナーがすでにリエゾンオフィサーとして規格制定作業に関与していることが確認された。非接触充電器については、B 小委員会議長がリエゾンオフィサーとして規格制定作業に参加していることが報告された。 米国エキスパートが TC69 とのリエゾンに参加したいとの希望があり、承認された。

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
			<ul style="list-style-type: none"> 日本からもリエゾンオフィサーとしてエキスパートの派遣要請があり、WG 会期中に塚原氏(日産)をアサインすることを議長に回答済みである。

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
11.2. TC9(鉄道用電気設備とシステム), SC17B (低圧開閉装置および制御装置), TC22(パワーエレクトロニクス), TC26(電気溶接), TC27(工業用電気加熱装置), SC62A(医用電気機器に関する共通事項), TC82(太陽光発電システム)	CISPR/B/593/INF CISPR/B/592/INF CISPR/B/565/INF CISPR/B/573/INF - CISPR/Bに関連する各 TC でのプロジェクトに関する報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各 TC の報告を確認する。 ・ TC9 関連の動向があれば情報を提供する。 ・ 我が国のエキスパートが TC82 のリエゾンオフィサーに就任したので、初の報告を実施する。併せて TC82 の EMC 製品規格提案の状況を報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下には WG での報告も含む。 ・ TC9 に関し、リエゾンオフィサーからレポートが提出されていることが確認され、リエゾンを継続することとなった。 ・ SC17B からの「交流電源端子伝導エミッションレベル改定案」に関する懸念事項と SC17B 機器への影響調査協力に関する紹介された。WG1 にて継続して対応することとなった。 ・ TC22 に関し、リエゾンオフィサーの Mr.Patra より、全体会議では時間制限のため概要報告のみ行われ、詳細は WG1 にて報告された。WG1 にて、以下が報告された <ol style="list-style-type: none"> (1) SC22E の適用範囲が、マルチ DC ポートの GCPC を扱うように拡大された。 (2) 9kHz から 150kHz までの伝導エミッションレベル提案値が記載された TS62578 改定案が、TC13 の国際ロビー活動により否決。 (3) 今後、150kHz 以下の電磁両立性確立を SC77A/WG8 で 2014 年中に

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
			<p>検討することになっており、TC22 からはメーカー関係者 3 名が WG8 のメンバーとして審議に参加している</p> <ul style="list-style-type: none"> • TC26 から、抵抗溶接機とアーク溶接機に対する EMC 規格の進捗状況が報告され、CISPR および ACEC 勧告と整合が取れていることが報告された。 • SC62A からのリエゾンについて報告があり、CISPR11 を参照した IEC 60601-1-2 が FDIS 段階とであることが報告された。 • TC82 での GCPC の EMC 製品規格提案状況について、新しくリエゾンオフィサーとなった吉岡氏より報告があった。吉岡氏がプロジェクトリーダーとなって進めていることが報告された。

審議項目	審議内容	わが国の対応	結果
12. IEC 中央事務局で記録されている CISPR SC B の作業計画の更新	CISPR/B/589/PW	・ 確認する。	・ 作業計画は、上記の決定事項 1～10(8, 9を除く)にあわせて更新する。 ・ プロジェクト f6(決定事項 8)と f7(決定事項 9)を作業計画に追加する。 ・ CISPR TR 18 の第 2 版改定案(CD)発行は 2013 年 10 月から 2014 年に延期。
13. 安定期間の見直し		・ 確認する。	・ CISPR11 第 5.1 版の安定期間は、2014 年から 2015 年に変更。プロジェクト f6 と f7 の完了とそれを含んだ CISPR11 第 6.1 版発行のために延期が必要となった。
14. その他			
15. 次回会議の場所と日程		・ 確認する。	・ B 小委員会全体会議は、2014 年 10 月 13 日から 24 日の間にフランクフルトで開催される CISPR 会議期間に開催予定であるとの紹介があった。
16. 閉会			

【審議結果のポイント・今後の進め方・目標等について】

1)CISPR11 改訂状況

- ・ 下記 4 案のうち②以外の CDV4 件を 2014 年 2 月までに発行し 3 か月の国内委員会投票を行うことで合意した。
 - ①CISPR11 全般的な改訂
 - ②電子レンジ妨害波への APD 測定法の導入(すでに CDV は完了)

③太陽光発電系統連系パワーコンバータ(GCPC)の直流端子妨害波電圧の測定法と許容値の導入(CDVは小容量機用、大容量機用で各1件)

④1GHz以上のエミッション要件の見直し提案

- 上記①に関しては、CD第2版の意見照会結果に対する確認が行われ、確認結果がB/WG1/13-35/CCとして発行された。
- 上記①～④のうち、CDVで承認を得たものをCISPR11第6版のFDISとして統合する予定であり、FDIS発行は2015年3月を予定している。
- CDVの投票結果は、6月3日、4日、5日に韓国で開催予定のCISPR/B/WG1中間会議で確認する予定である。
- 上記のCDV以外に、「中型装置の3m離隔距離放射測定導入」と「6面電波暗室での放射測定」の2案についてCDを発行し、上記CDVとは分離して審議を進めることで合意した。もし、CD発行後の工程でCISPR11第6版FDISへの統合が可能であれば包含することが議長より提案され、合意された。

2)MT CISPR/TR 18(CISPR/TR18のメンテナンス)とCISPR26の取り扱いに関する主要結論

日本からの提案に基づき、CISPR/TR18「架空送電線および高電圧機器の電波雑音特性」第3版の1stCDを本年末か来年初めに出すことになった。

CISPR/TR 26については、一旦プロジェクトが取り消されたので、新規提案(NP)の手続きから始めることになった。次回の会合は2014年5月に日本において開催の予定。

CISPR オタワ会議 F 小委員会 対処方針と審議結果(案)

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
1. 開会	2013年9月26日(木) 9:00~12:30		
1.1 IPR についての注意	—		特に宣言されるものはなかった。
1.2	—		Showers 氏の多大な貢献を讃え、ご冥福をお祈りした。
1.3 カナダ国内委員会からの挨拶	—		
2. 議事次第の承認	文書:CISPR/F/608A/DA	・議事次第を確認し、承認する。	特に疑義なく承認された。
3. バンコク会議議事録の確認	文書:CISPR/F/593/RM	・議事録の内容及び前回会議後のアクションを確認する。	特に疑義なく承認された。
4. 一般情報	—		
4.1 IEC 中央事務局からの情報	—	・情報の内容を確認する。	中央事務局から、規格化作業の統計と手順の変更が報告された。蓄電システムの TC120 が新設された。
4.2 CISPR の構成の確認	CISPR/1244/INF	・情報の内容を確認する。	WG2セクレタリのAlmering氏の記載漏れが指摘された。Colclough氏が修正する。
4.3 新しいセクレタリ任命の確認	CISPR/F/595/AC	・確認する。	セクレタリが Almering 氏から Beeckman 氏に交代した。Almering 氏にこれまでの貢献をたたえ祝辞が送られた。
4.4 1906Award	—	・受賞者を祝福する。	Deter 氏が 1906 賞を受賞したことが報告され、祝福された。

5. WG1、WG2、JTF A/F のメンバーリストの確 認	—	<ul style="list-style-type: none"> メンバー交代等の説明を聞く。 	
6. WG1 Convenor からの 報告	文書:CISPR/F/616/INF	<ul style="list-style-type: none"> 報告を聞く。 CISPR14-1 の技術的変更及び全面見直し、CISPR14-2 の技術的変更の進捗について確認する。 	WG1 コンビナーの Kloska 氏より、バンコク会議、ロンドン会議、Webmeeting を開催し、3 つの CD を発行したことが報告された。
7.CISPR14-1 の審議			
7.1 現行規格の確認	現行規格:CISPR14-1/Ed5.2(2011-11) Stability date:2014	<ul style="list-style-type: none"> 報告を聞く。 	Stability date が 2014 年であることが確認された。
7.2 Ed.6 のメンテナンス 開始の確認	CISPR/F/605/RR	<ul style="list-style-type: none"> 報告を聞く。 	
7.3 CISPR14-1 Ed.6 fl 全面記述見直し	文書:CISPR/F/622/CC CISPR/F/606/CD CISPR/F/587A/INF CISPR/F/582/DC ・CD 文書に対するコメントについて審議する。	<ul style="list-style-type: none"> 日本エキスパートが、全面記述見直し案作成チームに参加し、多くの意見を提案している。 日本意見が反映されるよう、必要に応じて日本意見を解説する。 各国コメントを確認する。 CD 以降の予定を確認する。 	各国コメント及び Observation に対する具体的な審議は WG1 で行うこととなった。 CISPR/F/622/CC の A バージョンをセクレタリから回付する。 [WG1 の審議では、機器動作条件に関する韓国コメント 2 件に対して若干の修正があった。]

<p>7.4 CISPR14-1 Ed.6 f2 技術的変更の集約</p>	<p>文書:CISPR/F/623/CC CISPR/F/607/CD CISPR/F/585A/INF CISPR/F/574/DC</p> <p>・CD 文書に対するコメントについて審議する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・放射妨害波測定配置条件を中心に、日本エキスパートが多くの意見を提案している。 ・工具の動作条件について、変更内容を確認する。 ・追加・負荷端子の削除の審議について、更なる検討の材料となる技術的な見解を準備する。 ・日本意見が反映されるよう、必要に応じて日本意見を解説する。 ・各国コメントを確認する。 ・CD 以降の予定を確認する。 	<p>各国コメント及び Observation に対する具体的な審議は WG1 で行うこととなった。</p> <p>CISPR/F/623/CC の A バージョンをセクレタリから回付する。</p> <p>[WG1 での決定事項。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助/負荷端子に替わる測定方法を検討する TF を設ける。2 月までにコンセンサスが得られなければ、従来の測定方法をそのまま残す。 ・電動工具の動作条件として、現状の条件を残すことは却下。 <p>他]</p>
			<p>606/CD 及び 607/CD の 2 つの CD の審議進行について審議された。</p> <p>決定事項:</p> <p>それぞれの変更点を判別できるように編集し、2 つの CD 文書を 1 つの CD 文書に統合する。</p>

<p>7.5 複合機器の取り扱いの審議</p>	<ul style="list-style-type: none"> •7.4 の技術的変更に含まれる審議。 •LED スポット照明付きのレンジフードの取り扱いについての審議。 	<ul style="list-style-type: none"> •各国コメントを確認する。 	<p>複合機器の扱いについて多くの意見交換がなされた。</p> <p>決定事項：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 限定的で短期間での課題(LED スポット照明付きのレンジフード)はF小委員会内で WG1 及び WG2 で協議し解決する。 2. 全般的な複合機器の扱いについては、運営委員会に議題提出し、CISPR レベルでの検討を進める。 <p>短期間での課題は、</p> <ul style="list-style-type: none"> •CISPR15 には、家電機器の除外を追加する。 •CISPR14-1 には、照明機能を有する機器は照明を点灯させた状態で測定するという条件を追加する。複合機器の規定は変更しない。
<p>7.6 CISPR14-1 のクリック率の決定</p>	<p>文書:CISPR/F/566/INF CISPR/F/558/DC</p> <ul style="list-style-type: none"> •CISPR/A とのリエゾン参照。 	<ul style="list-style-type: none"> •日本は賛成意見を提出している。 •各国コメントを確認する。 	<p>クリック率について、CISPR14-1 と CISPR16 で若干の相違がある。これらは大きな問題とはならないものであるが、将来的に CISPR16 の修正が必要だろう。</p>

7.7 CISPR14-1 に RMS-AV 検波器を導入する提案	<p>文書:CISPR/F/510/INF CISPR/F/506/DC</p> <ul style="list-style-type: none"> •CISPR13 の欧州規格が発行された。この規格には RMS-AV とピーク値リミットが含まれている。 •WG1 が現状を報告し、どの様に審議を進めるかを決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> •日本は測定実験に参加し実測データを提供したが、506/DC の報告と実験結果が一致しないため、十分な検討が必要である。 •審議再開の背景、これまでに指摘された課題への対処について確認する。 	<p>欧州で EN55013 が RMS-AV を採用して発行された。WG1 で RMS-AV 検波の追加提案について審議を再開する。しかし、第 6 版の審議が重要である。</p>
8. CISPR14-2 の審議			
8.1 現行規格の確認	<p>現行規格:CISPR14-2 Ed 1.2(2008-07) Stability date:2014</p>	<ul style="list-style-type: none"> •確認する。 	<p>Stability date が 2014 年であることが確認された。</p>
8.2 CISPR14-2 A3 Ed.1 のプロジェクト	<p>文書:CISPR/F/621/CC CISPR/F/604/CD CISPR/F/580B/CC CISPR/F/573/CD CISPR/F/572/RR</p> <ul style="list-style-type: none"> •CD 文書に対するコメントについて審議する。 	<ul style="list-style-type: none"> •日本意見が反映されるよう、必要に応じて日本意見を解説する。 •各国コメントを確認する。 	<p>各国コメント及び Observation に対する具体的な審議は WG1 で行うこととなった。 CISPR/F/621/CC の A バージョンをセクレタリから回付する。 [WG1 の審議で、カテゴリー区分のフローチャートは削除することとした。]</p>
9. WG2 の Convenor からの報告	<p>文書:CISPR/F/617/INF</p>	<ul style="list-style-type: none"> •報告を聞く。 •LED 照明器具に関する審議状況の報告が主な報告となる。 	<p>WG2 コンビナーの Archer 氏より、WG2 の活動が報告された。</p>
10. CISPR15 の審議			

10.1 現行規格の確認	現行規格:CISPR15 Ed8.0 (2013-05) Stability date:2016 文書:CISPR/F/598/FDIS CISPR/F/594/RVC CISPR/F/533/CDV	<ul style="list-style-type: none"> •確認する。 	Stability date が 2016 年であることが確認された。
10.2 CISPR15 Ed.8.0 への 2 つ の Interpretation Sheet の発行の確認	文書:ISH1 ISH2 •2つの ISH は、 ① 安定器内蔵型ランプの調光器のエミッション要求の明確化。 ② 超低電圧 LED ランプのエミッション要求の明確化。 •これらは、Ed.7 の ISH と同じ。	<ul style="list-style-type: none"> •昨年発行された ISH と同等であり、確認する。 •但し、②については、F/601/CD の修正で明確な測定方法が提案されている。しかし、技術的な課題があり、WG2 での審議資料を準備していることを報告する。 	第 8 版に対する ISH1 及び ISH2 が発行された。これらは第 7 版の ISH と同じ内容であることが報告された。
10.3 CISPR15 Amd1	文書:CISPR/F/600/RR		
10.3.1 Fragment1 : 技術的変更	文書:CISPR/F/614/CC CISPR/F/601/CD CISPR/F/535/DC •CD 文書に対するコメントについて審議する。	<ul style="list-style-type: none"> •日本意見を多く提出している。 •3m 法での EUT サイズ制限、ELV LED ランプの測定条件など、日本提案を解説する資料を準備している。 •日本意見が反映されるよう、必要に応じて日本意見を解説する。 •各国コメントを確認する。 	

<p>10.3.2 Fragment2:2つのISHの導入。若干の技術的変更あり。</p>	<p>文書:CISPR/F/619/CC CISPR/F/611/CD ・CD 文書に対するコメントについて審議する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ELV LED ランプの測定方法の変更提案。 ・技術的変更の根拠について確認する。 ・各国コメントを確認する。 	
			<p>上記 2 つの CD 文書の各国コメント及び Observation に対する具体的な審議は WG2 で行うこととなった。 CISPR/F/614/CC 及び CISPR/F/619/CC の A バージョンをセクレタリから回付する。 修正1は 2015 年に成立する予定であるため、WG2 セクレタリからの提案により CISPR15 の Stability date を 2015 年に改めることとなった。</p>
<p>10.4 CISPR15 の全面改訂</p>	<p>文書:CISPR/F/613A/DC CISPR/F/535/DC ・次のステップについて審議する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本エキスパートが全面改訂案作成に参加している。 ・パッシブ・アクティブという概念の導入、器具・ランプ・独立型・屋内用・屋外用などの廃止（ポートの導入）など、大きな変更となっている。 ・日本意見が反映されるよう、必要に応じて日本意見を解説する。 ・各国コメントを確認する。 	<p>全面改訂の 1stDC は概要程度の内容であるが、重要な変更は Generic port approach である。DC 文書の各国コメント及び Observation に対する具体的な審議は WG2 で行うこととなった。 CISPR/F/620/INF の A バージョンをセクレタリから回付する。 CISPR/F/613A/DC に対するコメントが非常に多かったため、2ndDC を発行することとした。</p>

10.5 CISPR30 の審議			
10.6 現行規格の確認	<p>現行規格:</p> <p>CISPR TR 30-1 (2012-08)</p> <p>Stability date:2016</p> <p>CISPR TR 30-2 (2012-08)</p> <p>Stability date:2016</p>	<ul style="list-style-type: none"> •確認する。 	<p>CISPR TR30-1 及び 30-2 の Stability date が 2016 年であることを確認した。</p>
10.7 WG2 から、Part3 LED 用標準擬似器具の進捗について報告	—	<ul style="list-style-type: none"> •日本エキスパートが規格案作成チームに参加している。 •日本意見が反映されるよう、必要に応じて日本意見を解説する。 •報告を聞く。 	<p>Part3 に関する文書は回付されていない。LED 光源に関する情報が不足しており規格化が困難であることが指摘されたが、Part3 の必要性が再確認された。</p> <p>決定事項: Part3 の必要性が確認された。WG2 で文書作成を開始することが決定された。</p>
11.1 前回会議から回付された、いくつかの INF 文書の紹介。	—		
CISPR16-1-2 amd3 f2 Ed.1.0 CDNE の仕様を追加する修正	<p>文書:CISPR/F/596/INF =</p> <p>CISPR/A/1025/RVC</p>	<ul style="list-style-type: none"> •確認する。 	

CISPR16-2-1 Ed.2.0 CDNE の測定方法を追加する修正	amd3 文書:CISPR/F/597/INF = CISPR/A/1026/RVC	・確認する。	
CISPR16-4-2 Ed.2.0 CDNE 法の不確かさのバジェットを追加する修正	amd1 文書:CISPR/F/603/INF = CISPR/A/1033/RVC	・確認する。	
CISPR16-4-5 Ed.1.0 CDNE法の変換ファクタを追加する修正	amd1 文書:CISPR/F/599/INF = CISPR/A/1030/RVC	・確認する。	
11.2 作業の進捗確認	TF リーダーから現状報告。	・報告を聞く。	CISPR16-1-2, 16-2-1, 16-4-2 については近く FDIS に進み、CISPR TR16-4-5 は DTR に進むことが報告された。
12. 作業計画の更新	文書:CISPR/F/618/PW ・IEC 中央事務局で記録されている CISPR/F 活動計画の更新	・報告を聞く。	CISPR30-3 が追加されることになる。

13 CISPR/F で発行する規格の Stability date の確認	—	・確認する。	それぞれの規格の Stability date は以下の通り。 CISPR14-1 Ed.5.2:2014 CISPR14-2 Ed.1.2:2014 CISPR15 Ed.8:2015 CISPR TR30-1:2016 CISPR TR30-2:2016
14.1 CISPR/A	文書：CISPR_F Report Deter about CISPR-A activities (Ottawa-Deter)13-01		Deter 氏から、F 小委員会に関連する A 小委員会の審議状況が、特に 30MHz 以下の放射測定、サイト要件を中心に報告された。 決定事項： A 小委員会で審議されている 30MHz 以下の測定について、F 小委員会にも関連があるので、いくつかの提案を A 小委員会に提出することとした。
14.1.1 CISPR14-1 クリック率の決定	CISPR16-1-1 と CISPR14-1 のクリックの定義の相違を解決するために、CISPR16-1-1 を適用する作業の進捗の報告。	・報告を聞く。	7.6 項参照
14.1.2 30MHz 以下の放射妨害波	30MHz 以下の放射妨害波測定の審議状況の報告と F 小委員会への関連	・報告を聞く。	F 小委員会の審議にも関連する、A 小委員会の 30MHz 以下の放射測定の審議状況に注目する。

14.1.3 CISPR/A で使用する語句について	文書:CISPR/F/610/INF		F 小委員会の審議で新しい語句を使用する時は、A 小委員会から回付された CISPR/F/610/INF や IEC website Electropediaを用いて確認する。
14.1.4 GCPC の LVd.c. 電源ポートの測定方法と測定装置の検証についての CISPR JTF A/B の活動について	文書:CISPR/F/612/INF		IARU から DC 電源回路網の妨害発生モデルが適切ではなく、H 小委員会で適切なモデルを検討すべきとの意見があった。 (LED 照明に使用する)ELV 電源回路網が今後広く普及することが指摘され、妨害発生モデルが F 小委員会に関連するため、問題点を整理した文書を作成する。 決定事項: ELV と DC 電源回路網の放射モデルについての文書の準備を WG2 で始める。もし許容値に関連するようであれば、H 小委員会にも関係する。
14.2 CISPR			
14.2.1 スマートグリッドに関する審議(CISPR S WG1)	文書:CISPR/1252/DC		関連する CISPR の分野が挙げられた。150kHz 以下の測定について、CISPR14-1と CISPR15が記載されている。

14.2.2 FFT 測定を含む CISPR16 の使用推奨	文書:CISPR/1249/INF 文書:CISPR/F/609/INF		FFT 測定を含む CISPR16-1-1 及び 16-2-x を参照もしくは使用することを 推奨する。
14.2.3 誘導/ワイヤレス 充電機器	文書:CISPR/1258/INF 文書:CISPR/F(Ottawa-Japan)2013-01		日本 NC の久保田氏より、F 小委員会 において WPT システムに適用する許 容値及び測定方法を検討する作業を 加速する提案があった。 「運営委員会で審議すべき」、「誘導給 電技術の開発は進んでおり、 CISPR14-1 に要求事項を早急に盛り 込む必要がある」、「ワイヤレス/誘導 給電は EMC の新しい妨害モデルとし て導き出される」などの意見が交わさ れ、WG1 コンビナーが WG1 におい て、現存の許容値を適用して、測定条 件や測定方法の検討開始を提言し た。 決定事項： 運営委員会の審議結果を待つが、 WG1 において、現存の許容値を適用 して、測定条件や測定方法の検討を 開始する。
15 バンコク会議で確認 された作業の確認	文書:CISPR/F/593/RM	・確認する。	バンコクで確認された作業はすべて完 了した。

16 その他の作業			なし
17 会議中に割り当てられた作業国目の確認	—	・確認する。	今会議中に割り当てられた作業を下表に挙げる。
18 次回会議の確認	・開催場所と時期の確認	・確認する。	開催場所:フランクフルト(ドイツ) 日程: CISPR/F プレナリ会議:2014 10/15 WG1 と WG2 は共に、プレナリ後に 1 日とする。
19 閉会			カナダ国内委員会と全ての参加者、関係者に感謝の意を表して閉会した。

議事次第の項目	詳細
7.3と7.4	プロジェクト CISPR14-1 ED.6:CISPR14-1 のエディトリアル変更と技術的変更 それぞれの変更を判別できる形で、1つの CD 文書に統合する作業を進める。
7.5	多機能機器へのアプローチ 1. CISPR/F WG1,WG2 において、短期間の限定的な問題を解決する。 2. 共通的な課題は CISPR レベル(CISPR/S)で取り組む。 短期間での問題は以下のように解決する。 WG2 は、家電機器の除外を CISPR15 に追加する。 WG1 は、照明を点灯させた状態で測定を実施する旨の文章を CISPR14-1 に追加する。 多機能機器に関連する文章は現状のままとする。
7.7	CISPR14-1 へ RMS-AV の追加 WG1 の課題であるが、Ed.6 の作成作業を優先させる。
10.7	LED 用標準擬似器具の Part3 の審議

	WG2 は審議を開始する。最初の文書が作成された時点で、Program of work に追加する。
14.1	A 小委員会 CISPR/A で審議が進んでいる 30MHz 以下の作業に対して、F 小委員会が関連する項目について提案文書を A 小委員会に提出する。 担当:Deter 氏、セクレタリ
14.1.4	GCPC の LVd.c.電源ポートの測定方法と測定装置の検証についての CISPR JTF A/B の活動 ELV と DC 電源回路網の放射モデルについての文書の準備を WG2 で始める。もし許容値に関連するようであれば、H 小委員会にも関係する。
14.2.3	誘導/ワイヤレス充電機器 運営委員会の審議結果を待つが、WG1 において、現存の許容値を適用して、測定条件や測定方法の検討を開始する。

【審議結果のポイント・今後の進め方・目標等について】

- CISPR14-1 の審議では、技術的変更の 607/CD とエディトリアルな全面見直しの 606/CD のそれぞれについて、WG1 において各国コメントの検討が行われ、2 つの CD 文書を 1 つの CD 文書に統合することが決定された。負荷端子・補助端子測定の削除は見合わせる事となり、ハイインピーダンスプローブでの測定の代替となる方法の検討を小検討グループを設置して対応することとした。本検討グループのリーダーには我が国から前川委員が就任。
- WPT 機器の規格化促進について、F プレナリ会議では日本から、WG1 ではオランダからそれぞれ提案があり、WG1 に TF-IPT を設置して検討を進めることとなった。TF リーダーはオランダの Beeckman 氏。
- CISPR14-2 の審議は、CDV ステージに進むことが決定された。Stability date を 2014 に設定した。
- CISPR15 は第 8 版発行後、技術的修正の審議が活発となっており、修正 1 として 2 つの CD 文書が発行されている。CD 文書に対する各国コメントについて WG2 で審議が行われ、技術的な課題が残っているものの、CDV ステージに進むことが決定された。また、全面改訂となる第 9 版の審議も進んでおり、2ndDC 文書を作成することとなった。
- WG2 において、日本エキスパートより LED 照明器具内蔵用電源の擬似器具の重要性について提案し、TR CISPR30-3 として審議を開始することが確認された。

CISPR オタワ会議 H 小委員会 対処方針と審議結果

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
1. 開会	2013年9月24日 9:00		カナダ国内委員会から挨拶。議長がホスト国カナダ国内委員会と参加者に謝意を表して開会。参加者34名(14か国)、幹事、議長ら含め計37名参加。
2. 議事次第の確認 2.1 知的財産権について	CISPR/H/252B/DA	確認する。 申告の必要のある知財情報は、なし。	アジェンダ最新版の追加項目を確認して承認。 知財に関する申告なし。
3. バンコク会議議事録案の確認	CISPR/H/246/RM	確認する。	前回議事録を異議無く承認。
3.1 アクションアイテムの処理状況確認	CISPR/H/246/RM	報告を聞く。	前回 H 小委員会バンコク会議の A/I 5(無線業務のデータベースへの入力)は継続中との報告があった。
4. 組織に関する事項			
4.1 IEC 事務局からの連絡		連絡事項を確認する。	IEC および CISPR 組織の統計、SMB での決定事項(下記)の報告があった。 プレナリー会議欠席の際の事前意見提出と議決権について、各小委員会議長の任期、各小委員会副議長の新設、CD、CDV 等への各国コメントが即時閲覧可能となったことについて、IEC 文書テンプレート更新版についてなど。これに対し CISPR では各小委員会議長が同時期に退任する可能性があるために継続性の観点から副議長を設置してはとの提案が I 小委員会議長(オブザーバ参加)からあった。

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
4.2 作業プログラムの確認	CISPR/H/258/PW		各文書における作業状況が確認された。
5. 共通エミッション規格の改定			
5.1 住宅・商業・軽工業環境における共通エミッション規格 IEC61000-6-3 の改定	CISPR/H/237/DC CISPR/H/241/INF CISPR/H/248/RR CISPR/H/xxx/CD	提案されている改定内容について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 測定系の不確かさに関する記載の明確化→支持する。 FAR における床置機器の試験: 偏波別の許容値案は従来からの我が国の主張に沿ったものである。→支持する。 通信/ネットワークポートを有線ネットワークポートに変更 →異議無し。 EUT のクラス分け: CD 草案では、住宅・商業・軽工業環境において動作する機器について CISPR32 と同様のクラス A/B の定義を導入し、それぞれ個別の許容値を設定している。クラスA 機器に対しては、住宅環境では十分な無線保護ができない可能性がある旨の注意書きを定めている。→異議無し。 	現在 CD 回付準備中、今週中に CD 回付の予定であるとの報告があった。このため内容についての審議はなく、本 CD で新たに導入された事項(左記)の議長による紹介のみ。
5.2 工業環境における共通エミッション規格 61000-6-4 の改定	CISPR/H/238/DC CISPR/H/242/INF CISPR/H/249/RR CISPR/H/yyy/CD	次期改定内容の提案について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 測定系の不確かさに関する記載の明確化→支持する。 FAR における床置機器の試験: 偏波別の許容値案は我が国の主張が反映されている。 	現在 CD 回付準備中、今週中に CD 回付の予定である。今回の CD で新たに導入された事項の紹介のみ。

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
		→支持する。	
6. 無線業務のデータベース CISPR 31 の改定	CISPR/H/243/INF	ITU-R 勧告等の情報に基づく具体的なデータ入力の内容について確認し、必要に応じて対処する。	CISPR31 (テンプレート) は発行済みであるが、ITU-R から入手した勧告に記載された情報と CISPR31 のシートに要求している一部項目の整合性が無いため、H/WG1 にて判る範囲で入力したデータシートをITU-Rに送付して確認および補完を依頼することになった。
7. 技術文書 CISPR16-4-4 “干渉苦情統計と無線保護のための許容値の計算モデル”の改訂	CISPR/H/220/RR CISPR/H/226/INF CISPR/H/227/INF CISPR/H/244/INF CISPR/H/245/INF CISPR/H/250/DC CISPR/H/254/INF CISPR/H/255/INF CISPR/H/256/CD CISPR/H/zzz/CC	<p>1) 30MHz 以下の放射妨害波許容値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソウル・バンコク各会合(H/WG1)での改訂案へのコメント箇所(30MHz 以上の許容値設定モデルとの不整合、計算例における非現実的仮定等)については CD では修正されていることを確認する。 ・ 韓国から提案された、単一の微小磁気ダイポール波源からの電磁界強度に基づく距離換算法と確率要素の検討結果が追加されている。→導出根拠が不明な箇所については WG 等で確認する。 <p>2) B小委員会からの要請による GCPC の許容値の設定モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光発電以外の用途も含めた GCPC の許容値策定のための B/H-JTF 設立には反対の立場。 	<p>CISPR16-4-4 の改訂</p> <p>1) 30MHz 以下の放射妨害波許容値 : CIS/H/256/CD 回付・コメント締め切済み。同日(9/24)午後の WG1 会議で審議する。発行予定を 2014 年 3 月末とする。</p> <p>2) B小委員会からの要請による GCPC の許容値の設定モデル:H/250/DC 回付。B/H-JTF の設立をドイツが再度提案したが、審議の結果 WG1 において TF 設立に関する DC 文書を回付し、エキスパートを募集することとなった。</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
		SC-B/WG1/MT-GCPC への我が国の寄与と 協調し、必要に応じて対処する。	
8. CISPR/TR 16-2-5 大型機器からの妨害波の設置場所試験法	CISPR/H/236/Q CISPR/H/240/RQ	改訂作業の開始は不要との結論に基づき、新たな stability date (2016 年)を確認する。	議長から stability date について報告があった(項目 12 参照)
9. 上記以外の WG1 審議結果の報告			
10. 他 SC との協調			
10.1 S/WG1 スマートグリッド		報告を聞き、必要により対処する。	経緯報告のみ。
10.2 A/H JTF 代替試験法としての反射箱試験法	CISPR/H/184/DC CISPR/H/186/INF CISPR/A/889/AC	進捗状況の報告を聞き、状況に応じて対処する。	議長から状況報告。資金難から RRT 等の実地測定が困難となり、数値シミュレーションによる試験法間の相関を検討する予定である。
10.3 SC-A 妨害波測定における FFT の利用	CISPR/H/251/INF	報告を聞き、必要により対処する。	議長からの文書の紹介。ドイツ国内委員会から、FFT 自体は測定時間の短縮に効果的であるが、妨害波の性質を十分考慮した観測時間の設定が必要である旨のコメントがあった。
10.4 SC-A CISPR/A 規格・技術報告において使用される用語集	CISPR/H/253/INF	報告を聞く。	議長からの紹介のみ。
10.5 SC-F CISPR16-4-5 30 ~ 300 MHz の伝導妨害波測定に用いる CDNE の変換係数	CISPR/H/257/INF CISPR/A/1040/CC CISPR/A/1030/CD	報告を聞き、状況に応じて対処	議長からの報告のみ。
11. 他の標準化組織との調整			
11.1 ITU-T SG5-WP2 の紹介		SG5 WP2/5 議長の服部氏から活動の紹介	CISPR 各小委員会との連携等について質疑があった。議長から講演への謝辞および今後も情報交換

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			を希望するとのコメントがあった。
12. Stability date の確認	CIS/TR 16-2-5 Ed. 1.0 Stability Date: 2016 CIS/TR 16-4-4 Ed. 2.0 Stability Date: 2014 CIS/TR 31 Ed. 2.0 Stability Date: 2015 IEC 61000-6-3 Ed. 2.1 Stability Date: 2014 IEC 61000-6-4 Ed. 2.1 Stability Date: 2014	確認する。	Stability date の確認が行われた。
13. その他		状況に応じて対処する。	特になし
14. 次回会合の場所及び日時		場所・日程を確認する。	2014年10月13日 フランクフルト(ドイツ)で開催 WG1 は2014年2月24-28日にインターリム会合を 香港もしくはシンガポールにて行う予定。
12 閉会	2013年9月24日 12: 30		議長がカナダ国内委員会と参加者に謝意を表して 閉会。

【審議結果のポイント・今後の進め方・目標等について】

(1) 共通エミッション規格 IEC61000-6-3 および 61000-6-4 の改訂

床置機器に対する FAR 測定に関しては、日本が主張してきた偏波別の許容値が CD に反映された。また住宅・商業・軽工業環境における共通エミッション規格の CD では、クラス A/B の製品区分が導入され、それぞれに許容値を定義している。

(2) GCPC の許容値設定モデル

B 小委員会で審議(CDV 準備)中の GCPC の許容値設定に用いるモデルについて SC-H/WG1 における TF を設立し、1年間を目途に検討することとなった。

CISPR オタワ会議 I小委員会 対処方針と審議結果(案)

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
1. 開会	2013年10月1日(火) 9:00~17:30		議長がカナダ国内委員会と各国・各機関からの出席者に感謝の意を表して開会した。
2. 議事次第の確認	I/442/DA	確認する。	I/442A/DA +2rev に変更された 9月29日に下記の6件のINF文書が配布されており、出席者に確認(旧文書から追加箇所等変更箇所は赤字追加されている)が依頼された。 CISPR/I/454/INF CISPR/I/455/INF CISPR/I/456/INF CISPR/I/457/INF CISPR/I/458/INF CISPR/I/459/INF 以上の修正を行い議事次第は承認された。
3. 前回議事録の確認	I/432/RM 2012年11月13日にバンコックで開催されたI小委員会会議議事録の確認	確認済みであり、コメントはない。	特にコメントはなく承認された。
3.1 前回の会合で提起されたアクション	I/432/RM	確認する。	各アクションアイテムが確認された。 アクション1(新たなAANの検討をSC/Aで取り上げる件について、I小委員会議長は運営委員

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			<p>会に提起するとともに A 小委員会議長と協議する):完了</p> <p>本アクションに関し日本に対し、現時点では LCL 値が低い場合を要求しているケースがないため、新たな AAN の検討は不要ではないかとのコメントが A 小委員会議長より出された。これに対し日本から A/WG1 でプレゼンした資料(杉浦氏)の内容、通信ポートの伝導妨害波は電流での評価が基本であること及び、現在検討を進めている AAN の利点を再度説明した。(詳細は I/WG2 で議論することとなった。)</p> <p><u>アクション 2</u>(I 小委員会議長は既に 2 件の訂正を発行している CISPR 32 の次期 Version について運営委員会に提起して確認する):完了 (第 2.0 版を発行する)</p> <p><u>アクション 3</u>(CISPR 20 の次のステップについて):完了</p> <p><u>アクション 4</u>(CISPR Policy の導入について):完了 (CDV を発行予定)</p> <p><u>アクション 5</u>(I 小委員会議長は A 小委員会に Uncertainty についての検討を要請):完了</p> <p>本アクションでは、日本は従来から主張しているように許容値に対する適合は MIU だけでなく</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			<p>SCU として行うべきであるとコメントした。これに対し各国国内委員会より、これは I 小委員会だけの問題ではない、本件は時間がかかる案件である等の意見が出された。I 小委員会議長は、本件は現在 CDV 投票を準備中であり、その結果を待って I/WG2 で継続検討すると述べ了承された。</p> <p><u>アクション 6</u>(I 小委員会議長は FAR/FSOATS の Validation 方法とこれを用いた測定法についての検討継続を A 小委員会に要請):完了</p> <p><u>アクション 7</u>(VHF-LISN の TF<リーダー:長部委員>を設立し RRTを開始する):TF の設立は完了。今回長部委員が I/WG2 で進捗状況を報告する。</p>
4. IEC 中央事務局からの情報	IEC NEWS Mr. Sebellin より情報提供が行われる。	確認する。	<p>IEC/TO のプレゼンは割愛された I 小委員会議長は主要なトピックスとして以下を紹介した。</p> <p>① SMB Decision 146/15 2013-02 文書により、TC/SC 議長の任期は最大 6 年間、3 年間の任期延長が可能との情報提供があった。I 小委員会は幹事国(日本)の計らいにより引き続き Wright 委員が担当することになったと報告した。</p> <p>② IEC 全体で、新たな規格を策定するのに平</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			<p>均で 34 ヶ月を要している。</p> <p>③ P メンバは書簡で会議に参加できるが、会議場での投票からは除外される。</p> <p>④ 新しい IEC の Template が利用可能となった。</p> <p>⑤ 本年の IEC 1906 賞は、Arnett 委員と Storrs 委員であることが紹介され、SC/I 議長は来年の候補者を I 小委員会議長、I 小委員会セクレタリ&副セクレタリに連絡して欲しいと依頼した。</p>
5. CISPR/I の作業プログラムの確認	I/452/PW CISPR/I の作業プログラムの確認。	確認する。	<p>① CISPR 13 am1 Ed. 5.0 CDV 投票の締め切り(10月4日)後、WG2で継続審議する。</p> <p>② CISPR 20 am1 Ed. 6.0 I/460/RVD で FDIS が可決されたことが紹介された。WG4で継続審議する。</p> <p>③ CISPR 22 am1 Ed. 6.0 PLT 作業プログラムリストから削除された。</p> <p>④ CISPR 24 am1 Ed. 2.0 CISPR 35 を発行する運びであるため削除してはどうかとの意見に対し、日本から CISPR 24 では CISPR 35 で General な Requirements としている箇所を詳細に規定しており、試験を実施す</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			<p>る側にとっては今後 CISPR 24 の CDV 案に記載されている内容を CISPR 35 に反映する必要があることをコメントした。審議の結果、WG4 で継続審議することとなった。</p> <p>⑤ CISPR 32 f1 Ed. 1.0 ⑥ CISPR 32 f1 Ed. 2.0 ⑦ CISPR 32 f2 Ed. 1.0 ⑧ CISPR 32 f2 Ed. 2.0 ⑨ CISPR 32 f3 Ed. 1.0 ⑩ CISPR 32 f3 Ed. 2.0 ⑪ CISPR 32 f4 Ed. 1.0 ⑫ CISPR 32 f5 Ed. 1.0</p> <p>これら(⑤～⑫)の作業プログラムについての審議文書の進捗を確認した。いずれも WG2 で継続審議する。</p> <p>⑬ CISPR 35 Ed. 1.0</p> <p>2013 年 12 月に FDIS を発行する予定である。WG4 で継続検討する。</p>
6. CISPR/I のプロジェクト	現在進行中のプロジェクトの検討状況および今後の予定について確認する。	確認する。	
6.1 Publication を発行予定/発行後のプロジェクト	今回の会議では審議案件はない。		CISPR/I/417/PAS CISPR/I/460/RVD プラズマ TV を対象とする 150 kHz～30 MHz の

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			妨害波許容値と測定法の PAS が、投票の結果承認され発行されたことが紹介された。
6.2 FDIS ステージへ進むことが合意されたプロジェクト	<p>I/xxx/FDIS、I/444/FDIS</p> <p>以下の 2 点の FDIS の発行が報告される。</p> <p>(1) CISPR 35 第 1.0 版: マルチメディア機器の EMC-イミュニティ要求 FDIS に対する投票締切が SC/I オタワ会議以降であるため、投票結果の報告は行われず、CISPR 35 第 1.0 版の発行に向けた今後の審議スケジュールが確認される。</p> <p>(2) CISPR 20 第 6.0 版修正 1: 音声及び TV 放送受信機ならびに関連機器のイミュニティ特性-限度値と試験法 投票結果が報告され、修正 1 の発行に向けた今後の審議スケジュールが確認される。</p>	<p>(1) 報告を聞く。</p> <p>(2) 報告を聞く。FDIS 投票の結果、各国 NC より多数のコメントが提出された場合は、速やかに I 小委員会のマネージメントチーム会合を開催して各国の国内委員会の扱いを判断し、併せて今後の課題を抽出・整理すべきであることをコメントする。</p>	<p>(1) CISPR 35 の FDIS は現在フランス語翻訳中であり、12 月には発行する予定であることが報告された。</p> <p>(2) CISPR 20 の FDIS は投票の結果承認されたことが報告された。本 FDIS に対するエディトリアルコメントを WG4 マネージメントチームで検討後、修正 1 を発行することとなった。</p>
6.3 CDV ステージへ進むことが合意されたプロジェクト	<p>I/439/CDV、I/447/CDV、I/362B/CC、I/448/CDV、I/364B/CC、I/449/CDV、I/433/CD、I/446/CC、I/450/CDV、I/451/CDV</p> <p>(1) CISPR 13 第 5.0 版修正 1 の発行に</p>	<p>(1) CDV の投票締切後速やかに I/WG2 を開催し、①CDV が承認された場合は、速やかに各国コメントのレビューを行って FDIS の準備を進めることを提案する、②否決された場合は、各国コメントを吟</p>	<p>(1) CISPR 13 の CDV は投票締切が 10 月 4 日のため審議は行われなかった。</p> <p>(2)～(6) CISPR 32 関連の 5 件の CDV は準備中であるため審議は行われなかった。</p> <p>(7) CISPR 24 の CDV 案(本年 3 月の WG4 会議</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
	<p>向け、以下の各案件についての賛否と今後の扱いが議論される予定であったが、CDVの投票締切が10月4日となったため、投票結果の報告と各国国内委員会のコメントの審議は次回のI/WG2会合に延期されるものと考えられる。</p> <p>(ア) 測定器の不確かさ(MIU)のみを許容値に対する合否判定に反映。</p> <p>(イ) 放射妨害波測定の測定距離をアンテナとEUTの中心からアンテナとEUTの仮想外周円に変更。</p> <p>(ウ) DAB受信機に対する要求事項の明確化。</p> <p>(エ) USB等による記録・再生機能を有する放送用受信機の測定法の明確化。</p> <p>(オ) 放射妨害波許容値(測定距離3m)へのIEC/PAS 62825に関する注記の追加。</p> <p>(2) CISPR 32 第2.0版(マルチメディア機</p>	<p>味するとともに、わが国の投票内容に従ってこれまでと同様に(ア):反対、(イ)、(ウ)、(エ):賛成、(オ):反対の態度で対応し、2nd CDVあるいはCDの再発行を提案する。</p> <p>(2)、(3)、(4)、(5)、(6):報告を聞き、今後の審議スケジュールを確認する。</p>	<p>で準備済み)については5.作業プログラムの確認の議題での審議結果に基づき、審議は行われなかった。</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
	<p>器の妨害波規格):①家庭用衛星放送受信機の室外ユニットに対する要求条件、②様々なマルチメディア機器の測定配置条件、③検波器の条件、④その他に関する CDV が各国 NC の投票に付せられたことが報告される。</p> <p>(3) CISPR 32 第 2.0 版(マルチメディア機器の妨害波規格):放送受信機の測定チャンネルに対する要求条件に関する CDV が各国 NC の投票に付せられたことが報告される。</p> <p>(4) CISPR 32 第 2.0 版(マルチメディア機器の妨害波規格):FAR を用いた放射妨害波の測定法と許容値(周波数範囲:30 MHz~1000 MHz)の CDV が各国 NC の投票に付せられたことが報告される。</p> <p>(5) CISPR 32 第 2.0 版(マルチメディア機器の妨害波規格):GHz-TEM および反射箱(RVC)を用いた放射妨害波測定法と許容値(付則:情報)の CDV が各国 NC の投票に付せられた</p>		

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
	<p>ことが報告される。</p> <p>(6) CISPR 32 第 2.0 版(マルチメディア機器の妨害波規格):測定の不確かさに関する CDV が各国 NC の投票に付せられたことが報告される。</p> <p>(7) CISPR 24 第 2.0 版の修正 1 発行に向けた CDV 文書の扱いについて審議される。</p>		
7. 作業班/プロジェクトチームからの NP、CD、メンテナンスステージのプロジェクトの報告			
<p>7.1 WG2 からの報告</p> <p>CISPR 13 第 5.0 版(放送受信機および関連機器の妨害波許容値と測定法)のメンテナンス</p> <p>CISPR 32 第 1 版(マルチメディア機器の妨害波許容値と測定法)のメンテナンス</p>	<p>I/454/INF、I/458/INF、CISPR/1257/INF、I/438/INF、I/459/INF、B/563/DC</p> <p>昨年 11 月のバンコク会議以降の活動状況として以下が報告される。</p> <p>(1) CISPR 13 第 5.0 版修正 1 の発行に向け、I/439/CDV(発行:6 月 28 日)が投票に付されたが、投票締切が 10 月 4 日であるため、投票結果の報告と各国 NC コメントの審議は次回の I/WG2 会合で行う予定である。</p>	<p>(1)、(2)、(3)とも、報告を聞き内容を確認するとともに次回 I/WG2 の開催期日および開催場所を確認する。</p>	<p>(1)、(2) について</p> <p>WG2 の副コンベナーである Arthurs 委員が I/454/INF をもとに昨年のバンコク会議以降の WG2 の進捗状況を報告し、CISPR 13 の CDV 投票結果は次回の WG2 で審議予定、CISPR 32 第 2.0 版発行に向けた CDV(5 件)は 10 月下旬に発行予定であることを紹介した。</p> <p>引き続き以下の議論があった。</p> <p>ア. IARU 代表がプラズマ TV を対象として発行した PAS を CISPR 32 の Informative Reference に追加することを提案 → 日本</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
	<p>(2) CISPR 32 第 2.0 版(マルチメディア機器の妨害波規格)の発行に向け、3月にシドニーで開催した I/WG2 での審議結果に基づき、下記の 5 件の CDV を発行する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 家庭用衛星放送受信機の室外ユニットに対する要求条件他 ② 放送受信機の測定チャンネルに対する要求条件 ③ FAR を用いた放射妨害波の測定法と許容値(周波数範囲:30 MHz~1000 MHz) ④ GHz-TEM および反射箱(RVC)を用いた放射妨害波測定法と許容値(付則:情報) ⑤ 測定の不確かさ <p>(3) 3月にシドニーで開催された I/WG2 で CISPR 32 の今後の検討課題として下記に示す各項を抽出・整理した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 伝導妨害波の電流許容値 ② RMS Average 検波および FFT を用いた妨害波測定器 		<p>は許容値、測定法とも暫定である、Technology Neutral ではない等の理由で反対したが、PAS を Bibliography に追加することとなった。本件は CDV には間に合わないため、FDIS 作成時に追加することとなった。</p> <p>イ. 「Disturbance」と「Emission」の用語について → I 小委員会から運営委員会に上程して議論した後、CISPR 総会でも議論されたが、総会では本件は A 小委員会の用語検討グループで継続検討となったため、現時点では No Action となった。ただし、CISPR 32 を修正することになる場合に備え、I 小委員会議長は WG2 に Review を開始するよう要請した。</p> <p>ウ. ISO/IEC JTC 1/SC25(WG3)からのケーブルタイプに関するリエゾン → WG2 副コンビーナの Arthurs 委員より、本件については CISPR 32 第 2.0 版に向けた 5 件の CDV のうちの 1 件に反映していることが報告された。</p> <p>エ. WPT について → I 小委員会議長が CISPR 総会での審議模様を紹介し、WG2 で今後検討していく必要があることを示し</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
	<ul style="list-style-type: none"> ③ PASと30 MHz以下の放射妨害波測定法 ④ FAR/FSOATSのサイト評価 ⑤ 有線ポート伝導妨害試験のスペクトラムマスク許容値 ⑥ 試験エリアから離れるケーブルのインピーダンス規定(VHF-LISN) ⑦ ゲーム機をSCIのscopeに受け入れについて ⑧ Class II機器がAE経由で接地される時の伝導妨害波測定法 ⑨ ケーブル仕様の試験成績書への記載について ⑩ 無線電力伝送に関わる事項 ⑪ 非対称トランスを用いた AANによる伝導妨害波測定法 		<p>た。そして、WG2ではF小委員会に付議されたWPT関連事項および日本国内委員会が準備した文書も含めて議論するよう要請した。</p> <p>オ. ゲーム機器について → I小委員会議長より、I小委員会で検討を開始する前に運営委員会でScopeを明確にする予定であることが紹介された。(10月3日のSC/Sでの議論では、Transferする機器とそのTransfer手続きは、F小委員会とI小委員会の両議長に委ねられたため、具体化は今後の課題となった。)</p> <p>(3)の①～⑥、⑧、⑪の案件について → WG2で審議することとなった。</p>
<p>7.2 WG4からの報告</p> <p>CISPR 35 第1版:マルチメディア機器のイミュニティ限度値と試験法</p>	<p>I/455/INF、I/380/CD、I/388B/CC、I/412/CDV、I/xxx/FDIS、I/xxx/DC</p> <p>(1) 昨年のバンコク会議以降の活動状況として以下が報告される。</p> <p>① 本年3月のI/WG4シドニー会議でCISPR 35のCDVに対する各国コ</p>	<p>(1) 報告を聞き、状況を確認する。</p> <p>(2) アンテナポートイミュニティについては、昨年のバンコク会議に我が国より提出したが審議未了となっているブロードバンド放射イミュニティ試験法(周波数の掃引ではなく広帯域妨害波を一括放射)も</p>	<p>(1) について</p> <p>WG4コンビーナのDavies委員がI/455/INF文書を用いて昨年のWG4バンコク会議以降の検討状況を報告した。そして、このたびWG4の多くの関係者のお蔭でCISPR 35がFDISステージ(本年12月に発行予定)を迎えたことに感謝の</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
	<p>メントのレビューを完了し、FDIS 案の準備を開始した。</p> <p>② 作成された FDIS 案を編集チームがレビューした結果に基づき、FDIS 投票に向けフランス語訳を開始した。</p> <p>③ FDIS を投票に付したことと、IS 発行に向けたスケジュール。</p> <p>(2) 今回の会議では、本年 3 月にシドニーで開催された I/WG4 で英国メンバーが提案した、アンテナポートイミュニティの扱いと今後の検討スケジュールが審議される予定である。</p>	<p>含めて、今後検討していくことに賛成する。今回の会議では、専門家による TF を設立して検討を進めていくことを提案する。</p>	<p>意を表した。</p> <p>(2)について</p> <p>Antenna Port イミュニティおよび Differential mode イミュニティの両者の扱いについて議論され、いずれも通常の審議プロセスに従ってWG4で検討を開始することとなった。</p>
7.3 スタビリティデイトの確認	CISPR 13、CISPR 20、CISPR 24、CISPR 29 および CISPR 32 のスタビリティデイトについて確認する。	確認する。	<p>スタビリティデイトについては以下の通り確認された。</p> <p>CISPR 13 - 2017</p> <p>CISPR 20 - 2018</p> <p>CISPR 22 - 2017 : CISPR 22 の測定距離に関して若干の議論があり、USNC が、測定距離に関する ISH の発行を問う文書を WG2 に提案することとなった。I 小委員会議長は DC 文書を発行することになるであろうとの見解を示した。</p> <p>CISPR 24 - 2014</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			CISPR 29 - 2017 CISPR 32 - 2014
8. 他の CISPR 小委員会等の活動状況			
8.1 ACEC からの報告		報告を聞く。	CISPR 議長より、IEC Guide 107 の Update、WPT (主に EV) に関わる EMC 問題、Smartgrid に関わる 2 kHz~150 kHz の Compatibility 等に関する報告があった。
8.2 運営委員会からの報告		報告を聞く。	CISPR 議長より、SC77A との 2 kHz~150 kHz の Compatibility に関する検討、P メンバの CISPR 関係会議への出席状況、LED 照明機器およびプラズマ TV からの妨害波に対する懸念 (IARU)、Smartgrid および LED 照明機器からの妨害波に対する懸念 (EBU) 等に関する報告があった。
8.3 A 小委員会における I 小委員会に関連が深いプロジェクト	A 小委員会の議長より I 小委員会に関連が深いプロジェクトとその審議状況が報告される。	報告を聞く。	A 小委員会の議長の Stecher 委員が I 小委員会に関係が深い A 小委員会の案件について、CISPR 16-2-1 改定版を発行、AAN の特性および CDNE の導入を含めて CISPR 16-1-2 を発行、Antenna Calibration (CISPR 16-1-6) の CDV を合意、プリアンプの使用について議論中、DC-AN (A/B-JTF)、30 MHz 以下の測定法、EUT size に関わる課題、測定の不確かさに

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			<p>関する検討状況等を報告した。続いて以下の議論が行われた。</p> <p>① CISPR 22 から CISPR 16 シリーズへ移設された内容に、CISPR 32 と整合していない点があるとの懸念(UK) → A/I-JTF の課題としてリーダ(Gorini 委員)がとりまとめ、次回のフランクフルト会議で報告。</p> <p>② OATS の Site Validation (4 dB) の変更についての懸念(UK) → DC 文書で各国国内委員会にコメントを聞く予定(A小委員会議長)。運営委員会に提起し、本 DC に Economic Rationale を含むよう提言する(Iしょう議長)。</p> <p>③ A 小委員会で Test Setup と EUT の Operating Condition に関する Uncertainty を全く検討していないことを懸念(日本) → A 小委員会では困難(A 小委員会議長)。本件は CISPR 16-1-4 に基づく I 小委員会の将来課題と位置づける。</p>
8.4 H 小委員会における I 小委員会に関連が深いプロジェクト	H 小委員会の議長より I 小委員会に関連が深いプロジェクトとその審議状況が報告される。	報告を聞く。	H 小委員会の議長の Gorini 委員が I 小委員会に関係が深い H 小委員会の案件として、30 MHz 以下の妨害波許容値の Rationale に関する 1 st CD を発行した (H/256/CD)、Generic Standard

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			の改定に向けたCD(2件)を発行した、FARの Site Validation (CISPR 16-4-1 と IEC 61000-4-22の比較評価)について検討中、等を報告した。
8.5 リエゾン			
8.5.1 ITU-R WP7D とのリエゾン	PLT システムからの妨害波に関するその後の検討状況が報告されるものと考えられる。(リエゾン担当者:Oliver 委員?)	報告を聞き、状況をみて対応する。	報告がなかった。
8.5.2 ITU-T SG5 とのリエゾン	ITU-T SG5 で検討中の広帯域通信システムからの妨害波測定法、xDSL の免疫試験法の等の検討状況が報告されるものと考えられる。(リエゾン担当者:ITU-T SG5 WP2 服部議長)	報告を聞き、状況をみて対応する。	報告(プレゼン)は行われなかったが、ホームネットワークシステムの免疫試験条件を勧告しているK.93と、CISPR 35との間に差分があるか否かを確認する必要があるとの指摘があり、WG4でレビューすることとなった。CISPR議長(ACEC議長)より、このレビュー結果はACECでも話題になるであろうとの見解が示された。
8.5.3 ITU-T SG15 とのリエゾン	ITU-T SG15 より、勧告 G.9960 で規定している PLT の信号電力(PSD)と妨害波問題に関するその後の検討状況、G.hn 関係の EMC 問題(同軸モデムで授受する情報信号が放送受信アンテナから逆放射等)等が報告されるものと考えられる。(リエゾン担当者:Detrez 委員)	報告を聞き、状況をみて対応する。	リエゾン担当者のDetrez委員より、ITU-T SG15 は、CISPRにおけるWPTの検討状況に多大な関心を有していることが報告された。 本報告に対しIARUより、WPTとPLTとの間に関わる問題はPLTの使用を停止することにより回避可能であるとの見解が出された。 I小委員会 議長は、運営委員会にB小委員会と連名でITU-T SG15に返答をすることを上程し

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			たいと提案し、了承された。
8.5.4 ETSI TRM とのリエゾン	I 小委員会に関連が深いプロジェクトとその審議状況が報告されるものと考えられる。(リエゾン担当者:Storrs 委員?)	報告を聞き、状況をみて対応する。	リエゾン担当者(Storrs委員)が欠席したため、Gorini委員(H小委員会議長)が代理で概要を報告した。そして、CISPR 35、ITU-T勧告K.48、EN 300386のTelecom Network Equipmentに対するイミュニティ要求を比較し、その結果をWG4で議論することを提案し、了承された。
8.5.5 ISO/IEC JTC1/SC25 とのリエゾン	I 小委員会に関連が深いプロジェクトとその審議状況が報告されるものと考えられる。(リエゾン担当者:)	報告を聞き、状況をみて対応する。	リエゾン内容は採用されCDVに反映されているため議論は行われなかった。(7.1項参照)
8.5.6 IARU とのリエゾン	I 小委員会に関連が深いプロジェクトとその審議状況が報告されるものと考えられる。(リエゾン担当者:Kootz 委員)	報告を聞き、状況をみて対応する。	IARU代表のVerholt委員が、リエゾン資料(30MHz未満の放射妨害測定)を紹介し、検討の進捗が無いことに大きな不満を表明した。I小委員会議長は、本案件は現在、ACECでまずは「Compatibility Level」を明確にすべきであるとの指示が出されており、これに基づく検討が進められていると回答した。その他の議論はなかった。
9. その他の議題	(1) 用語 (disturbance と emission) の定義について。 (2) CISPR 32 と CISPR 35 の共通部分のメンテナンス (3) CISPR 20 と CISPR 24 の廃止時期	(1) ～(4) 報告を聞き、状況をみて対応する。 (5) 幹事国として3年の任期延長を承認したことを報告する。	(1) について → 本件はA小委員会の用語検討グループで継続検討となったため議論なし。(7.1項参照) (2) について → USNC の Arnet 委員が I/457/INF 文書を参照しながら CISPR 32 と

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
	<p>(4) 無線電力伝送について</p> <p>(5) I小委員会の Wright 議長の任期延長について</p>		<p>CISPR 35 の共通部のメンテナンス方法について提案した。本件については TF を設立して検討していくこととなった。(リーダー: Arnett 委員、メンバ:Wright 委員、Auty 委員、Griffin 委員、雨宮委員)</p> <p>(3) について → 本件の議論は来年まで延期された。</p> <p>(4) について → 本議題は 7.1 項に移設された。(7.1 項参照)</p> <p>(5) について → 現 SC/I 議長の 3 年間の任期延長を確認した。</p> <p>(6) 中間会議の必要性について → CISPR 35 が否決された場合は6ヶ月程の遅延が発生するが、致命的なものではないため中間会議は開催しないこととなった。</p> <p>(7) Vice Chairman について → I小委員会議長より、(自分は)3 年後は議長を退任することになるので、引き継ぎを上手く行う意味で Vice Chairman を設置してはどうかと各国国内委員会に提案。本提案は各国国内委員会からの反対はなく承認された。また、I小委員会議長は各国国内委員会に Vice Chair 候補の推薦を依頼するとともに、推薦</p>

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			結果を基にI小委員会幹事国である日本の セクレタリと相談する予定であると述べ、了 承された。
10. 次回会議の予定	次回 I 小委員会の開催場所および スケジュールが報告される。	報告を聞く。	2014 年 10 月 21 日～24 日の間、ドイツ・フラン クフルトにて開催。 I 小委員会:1 日、WG2:1.5 日、WG4:0.5 日 CISPR 合同会議自体は 10 月 13 日～24 日に渡 って開催
11. 閉会	議長がカナダ国内委員会と各国・各機関 からの出席者に感謝の意を表して閉会。		議長がカナダ国内委員会と各国・各機関からの 出席者に感謝の意を表して閉会した。

【審議結果のポイント・今後の進め方・目標等について】

(1)WG2 関係

- (ア) CISPR 13(放送受信機等のエミッション許容値と測定法):第 5.0 版の修正 1 に向けた CDV 投票は 10 月 4 日が投票締切のため審議は行われなかった。
- (イ) CISPR 32(マルチメディア機器の妨害波許容と測定法)第 1.0 版の改定:第 2.0 版の発行に向けた 5 件の CDV を準備中であり、これらの CDV に対する投票結果と各国 NC コメントは次回の WG2(2014 年 2 月・香港で審議予定。
- (ウ) IARU からのプラズマ TV 機器の PAS を CISPR 32 の Informative Reference に追加する要求は、昨年の I 小委員会バンコク会議の合意が覆され、CISPR 32 の参考文献に追加された。
- (エ) WPT の妨害波許容値と測定法については、TF(リーダー:Arthurs 委員、メンバ:Almering 委員、Khan-Ngerni 委員 Medler 委員、Hemmerlein 委員、雨宮委員)が設立され検討を開始。
- (オ) ゲーム機器を I 小委員会の所掌に入れる案件: F 小委員会議長と I 小委員会議長の協議結果を踏まえて具体化に着手。
- (カ) 「Disturbance」と「Emission」の用語の使い分け: A 小委員会の用語検討グループの検討結果を待つ。

(2)WG4 関係

- (ア) CISPR 20(放送受信機等のイミュニティ限度値と試験法):第 6.0 版の修正 1 に向けた FDIS を可決し、修正 1 を発行の運び。
- (イ) CISPR 24(情報技術装置のイミュニティ限度値と試験法):CISPR 35 の FDIS 投票が終了するまで審議は保留。

(ウ) アンテナポートのイミュニティについて:重要な案件の一つであるが、今回 DC 文書案が提案されなかったため今後の会議で継続検討。

(エ) 市販車載機器 (After market equipment) に対する要求について:TF (リーダー:Woerl 委員、メンバ:Thomsen 委員、Colclough 委員) が構築され、フローチャートを作成して適用範囲を明確化。

(オ) ディファレンシャルモード信号による伝導イミュニティについて:SC77B で審議中であることが紹介され、今後 I/WG4 でも審議を開始することとなった。

(3) その他

① CISPR 20 と CISPR 24 の廃止時期:来年の I 小委員会会議で議論することとなった。

② CISPR 32 と CISPR 35 の共通部分のメンテナンス方法について:TF (リーダー:Arnett 委員、メンバ:Wright 委員、Auty 委員、Griffin 委員、雨宮委員) を設立して米国の提案を参照しながら効率の良い方法を検討していくこととなった。

③ I 小委員会議長の任期延長と Vice Chair について:現 I 小委員会議長の 3 年間の任期延長を確認。また I 小委員会に Vice Chair を置くことが合意され、各国の国内委員会に候補者の推薦を依頼。